

Japanese  
Here We Have No Continuing City  
50-0200

「ここには、永遠なる都はない」  
リトルロック アーカンソー州 アメリカ合衆国  
1950年02月



[www.messagehub.info](http://www.messagehub.info)

ウィリアム・マリオン・ブラハム  
"...第七の御使が吹き鳴らすラッパの音がする時には、神がその  
僕、預言者たちにお告げになったとおり、神の奥義は成就され  
る。" 黙示録 10:7

## はじめに

際立ったウィリアムブラナムのミニストリーは、マラキ4章4,5,6及びルカ書17:30と黙示録10:7と多くの聖書の預言に対する聖霊からの答えなのです。この世界規模のミニストリーはこの終わりの時に聖霊による神の御業の継続なのです。それは聖句の中にあり、イエスキリストの再臨のためにある人々を整えるために立ち上げるために必要とされていると書かれています。

あなたが祈り深くこのメッセージを読むとき、この印刷された御言葉があなたの心に刻まれるようにと祈ります。

メッセージの正しい転写、翻訳を提供できるように最善を尽くしておりますが、英語の録音がウィリアムブラナムによって語られた説教をもっともよく表しているものです。

オーディオや転写された1100の説教がウィリアムブラナムによって語られたものが無料でダウンロード可能で又多くの言語で印刷可能になっています。(日本語での翻訳あり)

変更が行わないかぎり、メッセージを無料でコピー、配布することは許可されています。

## 「ここには、永遠なる都はない」

1 しかし、それは主の栄光のために、私がそう言うのです。神があなたを祝福してくださいますように。

さて、ヘブル人への手紙13章から御言葉をお読みしたいと思います。なぜなら、神の御言葉の朗読なしには、どの礼拝も完全とは言えないからです。私の言葉は過ぎ去ります。他の誰の言葉も過ぎ去ります。しかし、神の御言葉は決して過ぎ去ることがありません。

「わたしたちには一つの祭壇がある。幕屋に仕える者たちは、その祭壇から食べる権利がない。

大祭司が罪のために血を聖所に携えて入る獣のからだは、宿営の外で焼かれる。

それでイエスも、ご自身の血によって民を聖なるものとするために、門の外で苦しみを受けられた。

だから、わたしたちも宿営の外に出て、みもとに行こうではないか。そして、彼の受けられたそしりを身に負おうではないか。

(さて、ここが私のテキストです。)

わたしたちは、ここには永遠に続く都を持っていない。来たるべき都を求めているのである。」

(ヘブル13:10-14)

声が少し響いているように思いますが……二階席の方まで、ちゃんと聞こえていますか？

本日お話ししたい題は、

「ここには永遠に続く都はない」

です。

どうか、共に祈ってください。

なぜなら——ここにいる誰一人として、この地上に永遠の住まいを持つ者

はいないのです。

私たちは皆、旅人です。

巡礼者です。

ここは通過点にすぎません。

この世界の家も、街も、国も、制度も、すべては移り変わります。

けれども私たちは、「来たるべき都」を求めているのです。

それは、人の手で建てられたものではありません。

神が備えておられる都です。

そして主は、その都のために、門の外で苦しみを受けられました。

ならば私たちもまた、宿営の外へ出て、主のそしりを共に担うのです。

ここは永住の地ではない。

しかし、帰るべき都がある。

そこに、私たちの本当の希望があります。

2 私は、アブラハムがカルデアの地、ウルの町を離れたときのことを思います。

彼は、神が設計し、造られた都を求めていたのです。

アブラハムの内には、何かがありました。

彼はあの大きなウルの町を見ていました。そして、人々が集まり、共同体を築き、都市を形成する——その現実を見ながら、「これらの影となる、真の都がどこかにあるはずだ」と知っていたのです。

人間が都市を築くというその本能の背後には、**原型(タイプ)**があるはずだ、と。

本能によってか、あるいは聖霊の導きによってか、彼はその都——神が設計し、神が建てられた都——を求めて旅を続けました。

した。彼女は私の頭に手を置きました。彼女は言いました、“ビル、何を心配しているの、ハニー?”

私は言いました、“願わくば、もう我慢できない。”私は言いました、“私は見ました。…そこにいるのはシャロン・ローズですか?”

彼女は言いました、“はい、ビル。”彼女は言いました、“何を心配していますか?私とシャロンのことを心配していますか?”

そして私は言いました、“ハニー、私—どうしても我慢できません。私は。…”

彼女は言いました、“心配するのはやめてください。”“心配しないでください。私たちはあなたよりもずっと恵まれています。”

そして私は言いました、“そうかもしれません。”でも私は言いました、“ホープ、彼女はかわいい女性を作らなかったのですか?私たちは彼女を誇りに思っていないませんか?”

彼女は言いました、“確かに。”彼女は言いました、“疲れてないの?”

そして私は言いました、“ハニー、私はただ長い間病人のために説教し、祈っていただけです。”そして、それが私が行くことを知っている方法です。それは来なければなりません—まだ来ていませんでした。私は言いました。“疲れて立ち上がれなくなるまで、病人のために説教し、祈っていました。”

彼女は言いました、“座らないの?”

そして見てみると、そこには素晴らしい大きなモリスチェアのセッティングがありました。そして私は彼女を見て、彼女も私を振り返りました。言った、“あなたが何を考えているかはわかります。”

ある時、私はここにいました。…私たちは彼らに古い椅子を3脚、または家に古い椅子を2脚持っていました。そして…。

彼は異国の地で寄留者となり、  
自分を「旅人」「他国人」と告白しながら、  
アブラハム、イサク、ヤコブと共に天幕に住みました。

彼は石の家ではなく、テントに住みました。  
なぜなら、彼は永住するつもりがなかったからです。

彼は地上の都ではなく、  
天の都を探していたのです。

そして私たちもまた、その都を見えています。

ここは続く都ではない。

しかし、神が備えられた都がある。

それを見た人は、この世に深く根を下ろさなくなります。

3 どんなに多くの場所を旅しても、

どんなに遠くまで行っても、

故郷にまさる場所はありません。

今日ここに、家を離れている方はどれくらいおられますか?

手を挙げてみてください。……ああ、たくさんおられますね。

もし私に歌う声があれば、こう歌いたいですね。

「わたしたちは旅人、やがて来る都を求める者」と。

どれほど質素であっても、

やはり家ほど良い場所はないのです。

少しだけ、心の中で故郷へ帰る旅をしてみませんか?

きっと皆さんも、帰りたいと思われるでしょう。

どんな都会へ行っても、  
 どんな立派な建物を見ても、  
 自分が育ったあの小さな町、  
 あの田舎の家、  
 あの見慣れた通り——  
 あれに代わるものはありません。  
 私は今夕、皆さんと一緒にその道を歩きたいのです。  
 あの懐かしい道を、ゆっくりと散歩しながら、  
 過ぎし日のことを思い返すように。  
 ただ思い出のためではありません。  
 なぜなら、地上の「家」を思うとき、  
 私たちは自然と、もっと深い「帰る場所」を思い出すからです。  
 この地上は仮の宿。  
 しかし、本当の故郷がある。  
 心が懐かしさを覚えるのは、  
 天の都の記憶がどこかにあるからかもしれませんね。  
 4 今、心に最初に浮かぶのは——  
 田舎のほうき草の野原のそばに建っていた、小さく質素な家です。  
 古いリンゴの木が何本か立っていて、  
 そこに父と母と、幼い子どもたちが住んでいました。  
 本当に、ささやかな家でした。  
 私たちは、とても、とても貧しかったのです。

彼女は言いました、“ビリー ポールはどこですか？” それは彼女の弟です。  
 そして私は言いました、“I—I…。これは何ですか？”  
 彼女は言いました、“パパ、地上では私はあなたの小さなシャロンでした。”  
 私は言いました、“シャロン？私の赤ちゃん？”  
 彼女は言いました、“はい、パパ。” 言った、“覚えておいてください、私たちはここで不滅です。ここに来ると、私たちはもう小さな赤ちゃんではありません。私たちは皆、同じ年齢です。”  
 そして私は言いました、“ああ、ハニー。あなたはシャロンですか？” 彼女は言いました。… 私は言いました、“お母さんはどこですか？”  
 言った、“彼女はあなたの—新しい家にいます。”  
 私は言いました、“家？”  
 言った、“うん。”  
 私は言いました、“そうですね、ハニー、ここで何か問題があります。” 私は言いました、“ブランナムズには家がありませんでした。私たちは放浪者のようなものです。” 私は言いました、“私たちには家がありません。”  
 彼女は言いました、“でも、パパ、ここに一つありますよ。”  
 右を見回すと、とても大きくて美しい家がありました。そして、あちこちに明かりが輝いていました。  
 彼女は言いました、“お母さんがあなたを待っています。”。ここでビリーを待つつもりです。”  
 私は言いました、“わかりました、ハニー。” 私は帽子を手に、全力で走り出しました。私は階段まで走ります。私がそこに着くと、ホープは通常、腕を伸ばして出てくる私に会いました。そして私は全力で階段を上り、駆け上がりました。そして私は階段を上りました、ここで彼女は白い服を着てやって来て、その黒い髪が垂れ下がっていました。彼女は私のところに駆け寄り、腕を上げました。私は彼女のところに走って行き、帽子を投げ捨て、彼女の横にひざまずきま

そして私はキッチンに戻りましたが、床から冷たい霜が降りてきました。そして決して忘れません、私はメールを開きました。最初に開いたメールには、そこにこう書かれていました。“シャロン・ローズ・ブランナムさん。”それは彼女のちょっとしたクリスマスの貯金だった。銀行家は彼女がそれを決して描かないことを知っていたので、1ドル80セントでした。彼はそれを私に送ってくれました。ああ、どうしても我慢できなかった。私は泣き崩れました。夜が近づいてきました。私は床にひざまずきました。そして私は泣きながら祈り始めました。そして私は。… ああ、なんて時間だろう。。ほとんど我慢できなかった。

70 私はそこで横たわって眠りにつきました。夢を見た。私は西に出ていると思っていました。そして、私が西に出ていたとき、大草原を歩いていて、その歌を口笛で吹いていました:

ワゴンの車輪が壊れています、

牧場にサインしてください、“販売中。”

私はそのように口笛を吹いていましたが、古いプレーリースクーターと車輪が故障しているのを見ました。そして、そのスクーター船のそばに、白い服を着て、美しい青い目を輝かせた最も美しい金髪の少女が立っていました。そして私は帽子をかぶっていました。..私の帽子。そして私は通りかかち、「“こんにちは、お嬢さん”」と言って帽子を元に戻しました。

そして彼女は言いました、“こんにちは、お父さん。”

そして私は周りを見回して言いました、“お父さん?”

彼女は言いました、“確かに。”

私は言いました、“さて、お嬢さん、ごめんなさい。” 私は言いました、“I-I… あなたも私と同じくらいの年齢です。どうして私があなたのパパになれるの?”

彼女は言いました、“パパ、私のことを知らないの?”

そして私は言いました、“いいえ、奥様。残念ながらそうではありません。”

彼女は言いました、“あなたは自分がどこにいるのか分からないだけです、パパ。”

そして私は言いました、“そうですね、私は.. どういう意味ですか?”

父は苦勞しました。

一日七十五セントで、丸太を扱う仕事をしていました。

父には悪い習慣もありました。

酒を飲んでいたので。

それを言うのはつらいですが、事実です。

父は、私の腕の中で息を引き取りました。

私は父がどれほど懸命に働いたかを知っています。

帰ってくると、背中が日に焼け、

シャツが肌に張り付くほどでした。

母がはさみで、そつとシャツを切り離さなければならないほどに。

父が何をしていたとしても——

彼は私の父です。

私は父を恥じてはいません。

私は父を愛しています。

今日、父はもうこの世にはいません。

けれども、やはり父は父なのです。

——地上の家は小さく、貧しくても、

そこには愛と記憶がある。

それが「家」というものなのですね。

そしてその懐かしさは、

私たちがやがて帰る、もっと大きな「本当の家」を

どこかで思い起こさせるのです。

5 若い皆さん、覚えていてください。

もし今日、お父さんやお母さんが生きておられるなら、それは大きな祝福です。

どうか愛し、敬いなさい。

今そう思えなくても、

いつか必ず、「あの人たちは世界で一番の人だった」と思う日が来ます。

そして、決して軽々しく

「年寄り」などという言葉で呼んではいけません。

それは“年寄り”ではありません。

お父さんであり、お母さんです。

やがてその日が来ます。

花に囲まれた棺に横たわり、

牧師が「ちりはちりに、灰は灰に」と語るのを聞く日が。

そのときは、もう

「年寄り」などとは言いません。

そのときはただ、

「お母さん…」

「お父さん…」

と、手を握りしめて泣くのです。

だから、今、生きていうちに花を贈りなさい。

今、愛を示しなさい。

そして一番すばらしい花は——

従順です。

た、そして、私の姿のように、その上で小刻みに動いていました。..そこにある十字架のように見えました。そして私は思いました、“おお神のキリストよ。はい、そこにあなたを釘付けにしたのは私の罪でした。やってしまったことを後悔しています。” ああ、私は言いました、“神様、どうして私のような人に我慢できるでしょうか。あなたは私の心を傷つけ、私を打ちのめしました。でも、私に何ができるでしょうか?”

そして本当に緊張しました。そして私はゴム手袋をはめていました。ラインマンの多くは[不明瞭な言葉]2300を知っています。私のすぐそばを走って予備選挙をやってください。そして私は思いました、“ここを見てください。私はその予備選挙に手を出すことができます。1分以内にシャロンと一緒にいます。” 私は手袋をはめて脱いだ。私は言いました、“神様、私は正気を失ったか何かです。” 私は言いました、“シャリー、ハニー、もう我慢できません。パパがあなたと一緒に家に来ます。”

私は言いました、“彼らを見てください。..” 2300人がそこを走っていて、体の骨をすべて折って、電気で。私は言いました、“天におられる私たちの父よ、あなたの御名が崇められますように。” そして最初に気づいたのは、私は地面に降りていたということです。知らんよ。

69 もしその贈り物が事前に定められていなかったら、あなたのブラナム兄弟はそこで終わっていたと思います。しかし、神には他にやるべきことがありました。彼はその心を奮い立たせて、神が統治し統治する方であることを私に知らせなければなりませんでした。

家に帰りました。我慢できなかった、働けなかった。ママの家に行くと、ママは言いました、「“ハニー、入ってください”。静かにさせてあげましょう。”

私は言いました、“家に帰ります。” そして私は家に帰りました。なんだか涼しい天気でした。箱から郵便物を取り出して歩き回りました。バッチ処理をしようとしていました。私たちの家にはあまりありませんでした。私はそこに古いベビーベッドを置いていました。

でも彼女は私と一緒にそこに住んでいたんです。私たちは一緒にいました;そこは私たちの家でした。そしてそれは。… どんなに小さくても、それは彼女と私のものでした。そしてそれは私たちでした。全部で3ドル分の家具になるはずはなかった。しかし、それは彼女と私のものでした。それは私たちのものだったので、世界中のどの良い家と同じくらい価値がありました。

私は言いました、“ああ、スミス兄弟、私の魂は… ああ、どうしたらいいのかわからない。”

そして、彼が小さな土塊を小さな棺の上に落としてこう言うのを聞きました。“灰は灰に、塵は塵に、地は地に”

私は思いました、“神様、私に何ができるでしょうか？”

風が松の木を吹き抜けるように聞こえます。まるで次のような歌が聞こえたようです

川の向こうに土地がある、

私たちが永遠に甘いものと呼ぶもの、

そして私たちはその海岸に到達するだけです

信仰の布告によって、

一つずつポータルを獲得し、

不滅の者と共にそこに住むために、

いつか彼らは黄金を鳴らすだろう

あなたと私のために鐘を鳴らします。

私は墓から背を向け、心が張り裂けそうになり、家に帰りました。休むことができませんでした。日が経ちました。妻を手放すこともできましたが、それは… ああ、あの赤ちゃんは私の心の選択でした。どうしたらいいのかわかりませんでした、かわいい女の子。…

そして私は思いました、“ああ、今すぐに何をすればいいのだろう。”

68 ある日、私は行きました。… 私は公務員として働いていました。ある朝早く、ポールメーターを外すためにポールに登りました。私はそこに立って歌っていました

遠くの丘の上に、古くて険しい十字架が立っていました。…

私は行っていました。… そして、私はたまたま見ました、そして太陽が昇ると、私はそこにぶら下がってこれらの十字の腕に取り組み、側面を見渡しまし

それが、聖書における最初の約束を伴う戒めです。

「あなたの父と母を敬え。

これは約束を伴う最初の戒めである。

そうすれば、主があなたに与えられる地で、あなたの日々は長くなる。」

愛は、あとで示すものではありません。

今、示すものです。

ちよつと胸に来ますね。

でも、本当にその通りなのです。

6 父は農場で働いていました。

家にあった家具といえば、あの古いヒッコリー材の底編み椅子でした。覚えていますか？ あの編み込まれた座面の椅子を。

……どうやら、ここにいるのは都会育ちばかりではなさそうですね。

それから、古い灯油ランプもありました。

大きなフクロウの模様がガラスのホヤに描いてあったものです。覚えていますか？

私はそれを掃除する係でした。

手が小さかったから、ホヤの中に手を入れてきれいにできたのです。

台所には古い薪ストーブがありました。

父が薪を割り、それを家に運び込み、ストーブの後ろに積みました。

私たち小さな子どもたちも、のこぎりで切るのを手伝いました。

食卓もありました。

その後ろには長いベンチがあって、父が納屋の板を外して作ったものでした。

椅子は三つしかなかったので、

私たち男の子たちは、そのベンチに並んで座りました。

——何も豪華なものはありませんでした。

けれども、温もりがありました。

貧しかったけれど、

そこには家族がいて、笑いがあって、

一緒に働き、一緒に食べる時間がありました。

家とは、家具の数ではありません。

家とは、そこにいる人たちです。

だから、あの小さな家は、

今でも私の心の中で一番あたたかい場所なのです。

7 あの小屋のことも覚えています。

前の部分には床がありました。

前に一部屋、後ろに小さな半分ほどの部屋がありました。

切り株の上に据えられた、小さな“モンキーストープ”——洗濯用の小さな鉄ストープのようなものがあって、母はそこで料理をしていました。

ブラナム家の子どもたちは五人ほど。

私たちは走り込んで、顔を洗い、髪をなでつけ、

テーブルの後ろにぴよんと飛び乗るのです。

大きな三本足の鉄鍋に、どっさり煮込まれた夕食。

覚えていますか？ あの三脚の鍋を。

今でも、あの鍋で炊いた食事を一度食べられたらと思いますよ。

豪華な食事ではありませんでした。

けれども、湯気が立ちのぼり、

ました。そして、彼女が私を見たとき、彼女は小さな目を交差させるまでとても苦しんでいました。

ああ、私の。あの柔らかい小さな青い赤ちゃんの目の十字架を見たとき。…  
[テープ上の空白部分。]

66 当時は知らなかったけど、今は分かります。斜視の子供が列に並んだことは一度もありませんが、それについてどう思いますか。プラットフォーム上を通過したことは一度もありませんが、治癒したものもありました。粉砕によってそれが生み出されなければならないとは知りませんでした。でも、それを見るまでは決して思いつきません。

その小さな目の交差、そして彼女はとても苦しんでいました。そして私はひざまずきました。私は言いました、「ああ、イエス様、お願いです、神よ。」。私のやっていることはごめんなさい。」私は言いました、「彼女を私から奪わないでください。主よ、私は心から彼女を愛しています。神様、お願いします。」

大きな黒いカーテンが落ちてくるように見えました。彼女がいなくなったのは分かっていた。私は立ち上がり、彼女の頭に手を置きました。私は言いました、「神のご加護がありますように、私の最愛の小さな優しい天使よ。あなたを母親の腕に抱かせるつもりです。そして天使が数分以内あなたを家に連れて帰りに来ます。でもいつかパパが会ってくれるよ。」

私は頭を上げて言いました、「神よ、あなたは与え、あなたは奪いました。」。なぜ私を殺しているのか分からない。」私は言いました、「それでもあなたは私を殺すかもしれません、私はヨブと同じようにあなたを信頼するつもりです。私はあなたを信じます。」そして私は言いました、「私は。… どういうわけかあなたは私の心を傷つけています。これ以上どうやって持ちこたえられるか分からない。」しかし、私は言いました、「神よ、私は彼女の小さな魂をあなたに託します。受け取ってください、主イエス様。母親と一緒に祭壇に置いてください。そしていつか、彼らに会いに来させてください。」

そして私がそうしていると、神の天使たちが優しく降りてきて、彼女の小さな息を奪い、母親と一緒にいるために彼女を退屈させました。私は彼女を一母親の中に置き、地面の下に置きました。

67 私がそこに立っていたとき、メソジスト派の牧師で友人のスミス兄弟が土塊を手にとってそこへ歩いて行き、私がそこに立っていると、彼は腕を私の周りに回し、こう言いました。「ビリー、気を引き締めて、ハニーボーイ。」

きなかった。ママの所へ行った。私はただ。… ああ、泣いてた。家に帰りました。そして彼らは言いました、ママは言いました、“ここにいてください。”

私は言いました、“いいえ、家に帰ります。” 私たちには家具はありませんでしたが、それは私たちのものでした。それで私は横になるために家に帰りました。そしてちょうどそのとき、フランク ブロイ兄弟がやって来て、こう言いました。“ビリー、何か言いたくないのですが、息子よ。”

私は言いました、“そうですね、ちょうどそこにいました。”

言った、“それは違います。あなたの赤ちゃんも死にかけています。”

私は言いました、“あり得ません。”

言った、“はい、そうです。”

そして彼らは私を病院に連れて行き、私の小さなシャロン、私の小さな女の子に会わせました。彼女に電話できなかつた。… 私は彼女を聖書の名前と呼びたかったのです。私は幼い息子を私とセントポールの後にビリー・ポールと呼びました。そして、その赤ちゃんを聖書の名前と呼びたいと思いました。そして、私は彼女をシャロンのバラと呼ぶことができなかつたので、ただシャロン・ローズと呼びました。

65 そして病院に出ると、医者が私に会いました。彼は言いました、「“ビリー、彼女は死にかけています。”。そこに入らないでください。”

そして私は看護師が彼女を背を向けるまでそこに立ち、そこに駆け下り、彼女がいる場所まで降りていきました。私は彼女を見た。そして、そこに小さなものが横たわっています。。決して忘れない。彼女はまだ生後8か月です。

そして、私はよく家に帰っていたのを覚えています、私は.. 彼女は庭に出発し、私は角を曲がってクラクションを鳴らしました、そして彼女は行きました、“グー、グー、グー”ただ手を伸ばしてください。。私はただあの小さな仲間たちを愛していました。

そして彼女はとても苦しんでいたが、そのうちの1本の小さな太った足がけいれんを起こして上下に動いていた。そして彼女の小さな手は手を振っているように見えました。そして私は彼女を見て言いました、「シャリー、ハニー、パパを知ってる?」「そして私は自分自身を強くしようとしていました。そして私は言いました、“パパを知っていますか、ハニー?” “そして彼女の小さな唇は震え始め

家族が集まり、

笑い声が響いていました。

あれはただの食事ではなく、

家族の時間でした。

貧しかった。

でも、あの家には温もりがあった。

そして人は、どんなに遠くへ行っても、

心のどこかであの“家”に帰りたがるのです。

それが、地上の家。

そして私たちは、もう一つの家――

来たるべき都を求める旅人なのですね。

8 母は牛肉を入れてマリガン・シチューを作ってくれました。

(マリガン・シチューって知っていますか?野菜や肉を何でも入れて煮込む、あの素朴なごった煮です。)

私の皿はブリキの皿でした。

正直に言えば、大きなバケツのふたをひっくり返したようなものでした。

だから、ひしゃくが鍋に入るたびに、たっぷりよそってもらえたんです。

コーンブレッドも焼いていました。

あの鉄のフライパンで焼いたコーンブレッド、覚えていますか?

真ん中から切って、皿にのせるんです。

私は父の隣に座りました。

パンは一人ひとりが自分で割って食べました。

回ってきたとき、私はいつも端を折りました。

そこは皮が多くて、いちばんおいしかったからです。

今でも、あの味が好きです。

本当に、好きです。

これまで私は、たくさんの立派な場所で食事をしました。

友人である牧師たちが、国でも一流と言われるような店へ連れて行ってくれました。

それには本当に感謝しています。

けれども――

もしもう一度だけ、あの古いテーブルの後ろに座り、

父がそこに座っているのを見ながら、

一緒にマリガン・シチューを食べられるなら、

私は持っているものすべてを差し出してもいい。

でも、それはもう叶いません。

永遠に終わったのです。

だから、若い皆さん――

子ども時代を大切にしてください。

今ある時間を大切にしてください。

そして、神を愛してください。

いつか振り返ったとき、

あなたの“家”の記憶が、

あなたの心を温める日が必ず来ます。

その時に、後悔がないように。

9 あのテーブルのまわりに座っていた兄弟たちの姿が目には浮かびます。

いけません。”彼女は言いました。“それによって死ぬことは世界で最も素晴らしいことなのです。”彼女は言いました、“ずっとそこにいて説教してください。”言った、“私たちが行くはずだった野原にすぐ出て行くことと約束してください。”そして言いました。“できることはすべてやると約束してください。”言った、“そしてみんなに伝えてください、ここを出る準備ができれば素晴らしいことです。素晴らしいですね。”

そして私は言いました、“ああ、ハニー。あなたがそんな風に行くのを見るのはとても嬉しいです。”

そして彼女は言いました。… I—私は言いました、“どこに置いてほしいですか?”

そして彼女は言いました、“あなたは私を丘に連れて行きます。”

私は言いました、“私はあなたをウォルナットリッジに連れて行きます、そして私は—あなたの遺体を丘に埋葬します。”そして私は言いました。“ハニー、約束します、私は行きます、もし神が私を助けてくれないなら..私はすぐに野原に出て行きます、そして最後の一滴の血か命がなくなるまで決して立ち止まりません私の体から、償いをするため、または償いをしようとします。”そして私は言いました、“私は正しく生きるためにできる限りのことをします; 私は正しくします。”そして私は言いました、“見てください。”

そして彼女は言いました、“さようなら。”

そして私は言いました、“行きますか?” 私は言いました、“ほら、その朝、”私は言いました、“それで、私たちは今集まることができるでしょう、”私は言いました、“i—もし。… その朝、門の東側に行つてほしいのですが、”そして私は言いました、“そこに立つてほしいのです。そして[不明瞭な言葉]のとき。ここはひどいことになるだろう。”私は言いました、“もし—もし私が彼が来る前に死んだら、私はそこで寝ることになるでしょう。”私は言いました、“集まります。でも、もし私が野原のどこかにいて、取り上げられたら、”私は言いました、“あなたはそこに行って子供たちを待つて、門のそばに立つてください。そして、アブラハム、イサク、ヤコブが入ってくるのを見たら、「ビル、ビル、できるだけ大声で」と叫び始めます。”私は言いました、“そこでお答えします。”

彼女は弱々しい手を上げた。私は彼女に別れのキスをした。それが彼女との最後のデートだった。旅に出てる。そうだね。いつか、いつか、私は行きます。

64 彼女を葬儀場に連れて行ったとき、私は家に帰りました。どこにも満足で

彼女は言いました、“ビル、私はいつもあなたにそのライフルを買いたかったのです。”彼女は言いました。“私はあなたと一緒にいませんが、あと数分だけいます。”しかし彼女は言いました、“家に帰ったら、その紙の下の古い折りたたみベッドの上を見上げてください”。ライフルを買うために5セント貯金してきました。”彼女は言いました、“買うと約束してくれますか？”

ああ、私の。家に帰ると、その下に2ドルと何かが横たわっていて、私を殺そうとしているのを見つけました。私は言いました、“もちろんです。”でも私は言いました、“ハニー、あなたは去らないよ。”

彼女は言いました、“I—私はあなたと別れるのが嫌いです。”しかし、“そうしなければなりません。”と言いました。彼女は言いました、“構いません。”彼女は言いました、“大丈夫です。”言った、“さて、もう一つお聞きしたいことがあります。独身でいるな。”

私は言いました、“ああ、ああ、そんなことは聞かないでください。”

言った、“約束してください。約束してください—独身でいるのではなく、私の子供たちには家があり、あちこちで麻薬を吸うことはありません”

私は言いました、“ハニー、私—それはできません。”

そして彼女は言いました、“約束してくれませんか？” “I—I—もう少し楽に行けるよ。”

そして彼女は、あなたが飲み物を飲むことを気にするのと同じように、それを気にしませんでした。彼女は言いました、“I—私はただ。…” “あなたと赤ちゃんたちと別れるのは嫌だけど、”彼女は言いました、“ああ、ビル、こんな風に行くのはとても素晴らしいことです。”

そして私は言いました、“まあ、私はできる限りのことをします。”

63 そして彼女は言いました、“別のこと。”彼女は言いました、“私がなぜ行くのか分かっていますよね？”ああ、それが痛かったんだ。彼女は言いました。“もし私がママの言うことを聞かなかつたら、そして[不明瞭な言葉]が聞いていたら。…” “違ったでしょうね。”

私は言いました、“そうです、ハニー。”私は言いました、“ああ、私は一体何をすればいいのでしょうか？”

彼女は言いました、“これをしてください。”。この聖霊の宗教を恥じては

元気いっぱい、小さな子どもたち。

でも、もう何人かは永遠の中にいます。

もう二度と、あの光景に戻ることはできません。

ここには、永遠に続く都はない。

私たちは、来たるべき都を求めているのです。

父の姿も思い出します。

私と同じくらいの背丈でしたが、がっしりしていました。

袖をぐっとまくり上げて。

古いリンゴの木のそばに、洗面用のたらいが置いてありました。

木には小さな鏡が打ちつけられ、

食料袋で作ったタオルが掛けてありました。

私たちは外で顔を洗い、

木のまわりの小さなベンチで身支度をしました。

父が黒く波打つ髪をとかす姿。

腕の下で筋肉がうねるように動いていました。

私は思いました。

「わあ、父は千年くらい生きるに違いない。」

あんなに強いのがから。

あんなにたくましいのがから。

「ずっと生きる。ずっと、ずっと生きる。」

そう思っていました。

でも父は、五十二歳で亡くなりました。

——ここには、永遠に続く都はない。

どんなに強く見えても、

どんなに若く見えても、

地上の家も、体も、時間も、続きません。

だからこそ、

私たちは「来たるべき都」を求めているのです。

少し胸が締めつけられますね。

でも、この真実があるからこそ、

希望もあるのです。

10 あの家を見上げて、子ども心に思っていました。

「なんて大きい家なんだろう。きっと何百年も立ち続けるに違いない。」

土台は丸太。

外壁は粗い板張り。

でも、今そこには住宅団地が建っています。

ここには、永遠に続く都はない。

私たちは、来たるべき都を求めているのです。

ここへ来る少し前に、その場所を通りました。

胸がいっぱいになりました。

たった二十年で、こんなにも変わるのか——と。

でも、それが地上です。

続くものはありません。

土曜日の夜のことも覚えています。

た、“フルスタイル”そして—それで。… ああ、ファッション、フルファッション、それがそれだった。そして私は言いました、“それは私—私が望んでいる種類です。”

そして彼女は私のためにそれらを準備してくれました。彼女はそれらを袋に入れましたが、それはわずか約29セントでした。

そして私は言いました、“そうですね、2足ください。”

そして彼女は言いました、“それは確かですか?”

私は言いました、“それが彼女が望んでいたことです。”

61 それで私は戻って、そして。… もちろん、あなたは男性が女性に飛びつくのが好きなことを知っています。そして私は言いました、“ここを見てください。”私は言いました、“私はアブラハムの息子です。私は少しイディッシュ語です。川を越えて買い物に行くと、1足買える分だけストッキングを2足買って、お金が残ります。”私は言いました、“ただ。… 私はアブラハムの息子です。やり方は分かっている。わかりますか?” ほら、そんなことやってるよ。

そして神は彼女の心を祝福してくださいます。彼女は今夜墓の中にいますが、おそらくその上に雪が降っているでしょう。しかし、完全にそこにあるわけではありません。私は今でも彼女のことを思い出します。そうだね。そして彼女は続けました。

そしてそこで、彼女がそうしなかったと言ったとき。彼女がフォートウェインに着いたとき、もう一足のストッキングが欲しかったのは面白いと思いました。しかし、彼女はそれを言わないほど女性でした。

そして彼女は私に言いました。彼女は言いました、「“ビリー、あなたのお母さんにあげます。”。それらは私より年上の女性のためのものでした。”

そして私は言いました、“さて、神のご加護がありますように、ハニー。それは知らなかった。”私は言いました、“大丈夫でした。”

62 彼女は言いました、「“あの時、あなたはとても狩りに行きたかったのを覚えていますか、そして私たちはルイビルにいました。”あなたが欲しかった小さな。22ライフルを見ましたか?そして、返済するのに3ドルと何かかかりましたが、支払うお金がありませんでしたか?2年ほど前ですか?”

私は言いました、“ええ、覚えています。”

そして、私はそこでオーヴィル・スプーンに会いました。彼はこう言いました。“ビリー、パーチがそのことについての[不明瞭な言葉]を噛み砕いています..”

ああ、私は言いました、“私の..” 彼と話したのですが、彼女が何を言ったか忘れてしまいました。

60 そうですね、私はペニーズには行かなかったのです。なぜなら、そこには誰も知らなかったからです。しかし、私にはテルマ・フォードという名前の小さな友人が教会に来ていました。彼女は10セントの店で働いていましたが、そこで売られていることは知っていました。そして、テルマがやって来て、「“何が欲しいの、ビリー?”」と言いました

私は言いました、“ホープのために靴下が欲しいです。”

“さて、ホープは靴下を履かないでください。”と言いました

私は言いました、“彼女は確かにそうです。”

彼女は言いました、“彼女はストッキングを履いています。”

私は言いました、“そうです。そうだね。” 私は思いました、“ああ、私はすでに無知を示しました。” そして私は言いました..

彼女は言いました、“どんなものが欲しいですか?”

そして私は言いました、“どんなものを手に入れましたか?”

彼女は言いました、“シフォンとレイを手に入れました..” 安いレーヨンは何ですか?彼女は言いました、“レーヨンを手に入れました。”

私は言いました、“それが私が望んでいることです。それが私が望んでいることです。”

彼女は言いました、“レーヨンが欲しいですか?” 私は.. レーヨンもシフォンも、どれも同じように聞こえました。違うことは知らなかった。彼女は言いました..

“はい。” それで彼女は私に..それらを手に入れて、袋に入れました。

私は言いました、“フルスタイルが欲しいです。” 彼らの背後に何かをもたらしたあのもの、あの、あの.. 分からないよ、知ってるでしょ。私は言いました

町へ行って、食料品のつけを払うのです。

支払いが済むと、食料品店のグローワーさんが

小さなキャンディー袋をくれました。

週の食料品代は三ドルほど。

父の稼ぎは四ドル半くらいでした。

ぎりぎりの生活。

でも、その小さなキャンディー袋が、

まるで宝物のように思えたのです。

今振り返れば、

豊かさは金額ではなかった。

あの時間、

あの家族、

あの思い出。

でも、それも地上のもの。

すべては過ぎていきます。

だからこそ、

私たちは心の奥で知っているのです。

本当の故郷は、まだ先にある。

地上は変わります。

家も、町も、家族も。

けれど、来たるべき都は変わりません。

11 母は店で布を買っていました。

妻がここに座っているので、あまり詳しく言うとまた言い間違えそうですが……ほら、あのシャツを作るための小さな柄の布です。

そう、ギンガムです。

あるとき教会で、私はそれをどうしても思い出せなくて、大失敗をしました。

水曜の夜の集会で、ちょっと気取らない話をしようとしていたのです。

聖歌隊が後ろに座っていて、私は壇上で一生懸命、

「が…ぎ…がん…じん…？」

なんて言いながら、必死でその言葉を探していました。

ちょうど道の下に「ギンガム・コテージ」という場所があったので、

それを思い出そうとしていたのですが、

どうしても口が回らない。

私は言いました。

「きっと、これ言ったら間違えるぞ。」

そこで、聖歌隊にいたアイリーン・ワイズハートという女の子に頼んだのです。

「ワイズハート姉妹、もし私が忘れたら、後ろから教えてくださいね。」

私は布地のことなんて、さっぱり分かっていませんでしたから。

——こういうところが、なんとも人間らしいですね。

偉そうに説教していても、

布の名前ひとつでつまずく。

でも、それでいいのです。

私たちは永遠の都を求める旅人ですが、

地上では不完全な人間です。

彼女は言いました。“私の赤ちゃんを柱から柱へと引っ張らせないでください。” 彼女は言いました。“そして、私があなたに告白しなければならないことがいくつかあります。”

私は言いました、“それは何ですか？”

彼女は言いました、“ある時覚えていますか” そして言いました、“あなたは釣りに行っていたので、私はあなたに電話しました。そしてその夜、私たちは会議のためにフォートウェインに行く予定でしたか？”

私は言いました、“はい。”

彼女は言いました、“ストッキングを買いに行きましたね。”

私は言いました、“はい、覚えています。”

彼女は言いました、「“それらは間違った種類のストッキングでした、ハニー”。彼らは正しくなかった。”

59 まあ、それは何だったのでしょうか、私は釣りをしていました。私は家に帰り、フォートウェインに行かなければなりませんでした。その夜、私はフォートウェインで説教するつもりでした。彼女の父親はフォートウェインに住んでいました。それで私は説教するためにそこに行っていたのですが、彼女は。… あなた。… あなたが買う女性の靴下には2種類あります。1つは。… と呼ばれます 名前を挙げてください、誰か。それは—シフォ—シフォンですか？ そうだね。そして、他の種類は何ですか？ レーヨン？ さあ…… レイモンドかレイモンドか？ レーヨン？ どちらが一番良いですか？ シフォン。そうですね、その時は60セントほどかかりました。そして彼女はお風呂に入っていて、こう言いました。“ビリー、あなたはペニーズの—に駆け寄って、私に—靴下を買ってきてください。”

そして私は言いました、“わかりました。” そして私は通りを歩いていました。そして彼女は言いました。… さて、覚えておいてください、私は女性の服について何も知りませんでした。そして彼女は言いました、“シフォンを手に入れましょう。” 私は通りを歩いて行っていました、“シフォン、シフォン、シフォン、シフォン、シフォン。”

誰かが言いました。“こんにちは、ブランナム兄弟。”

私は言いました、“こんにちは、シフォン、シフォン、シフォン、シフォン、シフォン、シフォン。”

私は言いました、“いいえ、誰も望んでいません。自分で入ります。入るわ。” 私は言いました、“私は彼女を愛しています、そして私は入ります。” 私がドアまで歩いて行き、ドアを開けると、彼女はどのように全身を覆い、毛布が彼女の顔の上に引き上げられました。シーツをガクガクと下ろしたら、心が張り裂けそうになりました。.. 私は彼女に手を置きました、彼女の額の汗はちょっとベタベタした感じでした。私は言いました、“希望、希望、ハニー。” 私は言いました、“一度話してください。まあ、一度だけ話してくださいね。” 私は彼女を揺さぶっていた。

58 友人たちよ、もし私が百年生きるなら、起こったことを決して忘れないだろう。あの二人の大きな茶色の目は私を見上げていました。彼女はとても弱かったので何も言えませんでした。彼女は微笑んでいた。彼女は指を取り、身振り手振りをした。それで私が降りると、彼女は言いました、“なぜ私に電話したのですか、ハニー?”

そして私は言いました、“まあ、彼らは..” 私は言いました、“わかりません。”

彼女は言いました、“ああ、私は一別の土地にいました。” 彼女は言いました、“とても平和でした。苦しんでなかった。” 彼女は言いました、“偉大なオリオン座のような偉大な大きな鳥。” そして彼女は言いました。“白い服を着た男が両側に一人ずついて、私を家に連れて行ってくれました。”

ああ、友達。どこかに土地がある。彼女が死にかけているとき、彼女の目はちょうどその向こうの楽園を見るために開いたと思います。彼女は少しの間結集した。

看護師が入ってきます。そして彼女は言いました、“看護師さん、来てください。” 彼女は言いました。“あなたが結婚したら、私のような夫が生まれることを願っています。”

私は言いました、“ああ、ハニー、私は何もしていません。”

彼女は言いました。“ああ、あなたの心を祝福してください。” 彼女は私の背中をたたきました。看護師は振り返って泣きながら出て行った。

彼女は言いました。“ビル、いくつかお話ししたいことがあります。” 言った、“行くよ。” 言った、“泣かないで。”

私は言いました、“わかりました。”

時には言い間違え、

時には笑われ、

時には自分でも苦笑いする。

それでも主は、そんな私たちを用いてくださる。

ちょっと微笑ましい話ですね。

12 「さて、水曜の夜はこのタバナクルでは“へりくだりの夜”です。」

そう言ったんです。

「兄弟たち、作業着で来なさい。オーバーオールで。私もオーバーオールで説教します。」

そして言いました。

「姉妹たちは、その…その……」

そこで後ろに下がると、聖歌隊のアイリーンが小声で、

「ギンガム、ギンガム…」と教えてくれました。

ところが私は、なぜか口を開いてこうやってしまったんです。

「グレイハウンドのドレスで来てください。」

……ああ。

あれは本当にひどかった。

会衆は大笑い。

私は「まあ、やってしまったものは仕方ない」と思って、

「あの下のコテージにある、あの布みたいなやつですよ。」

なんて言ってごまかしました。

それからもう一つの話。

当時、私はパトロールをしていました。

狩りをするとき、大きな赤いハンカチを持ち歩くでしょう？

あの真っ赤な、大きなやつです。

ポケットに入れていました。

ある晩、集会に遅れそうで、

小さな二部屋の小屋から慌てて通りを横切り、

着替えてそのまま説教に立ちました。

一生懸命語っているうちに汗が出てきて、

後ろのポケットからハンカチを取り出し、

勢いよく振ったんです。

ふと見ると――

あの大きな赤いハンカチ。

妻がこちらを見ているのが見えました。

私は言いました。

「まあ、小さいのは怖いんですよ。飲み込んでしまいそうで。」

……あれもまた、教会での“最悪の瞬間”のひとつでした。

でも、こういう話があるからこそ、

人はほっとするのもかもしれません。

説教者も完全ではない。

間違えもする。

赤いハンカチも振る。

けれど――

ここには、永遠に続く都はない。

チューブを入れて片肺を潰したのを覚えています。

聞く。もし持っていたら…。彼女は私の手を握って泣き、涙が彼女の頬を伝いました。彼女はただ苦しんでいるだけで私を見るでしょう。少しも良いことをしたことはありません。もし私がそれを乗り越えなければならなかったら；私は二度とそれをやり遂げることはありません。そうだね。彼女が私の手を握っているとき。…

57 しかし、違反者のやり方は難しいということをお見せするためです。決して忘れない。私は請求書を返済するために働こうとしていました。そして、すべて。…ある日、私が外出していると、「“奥さんが生きているのを見たいなら、すぐに来てください」という電話がかかってくるのが聞こえました。”

私は病院に急いで行きました。決して忘れない。私は帽子を脱いでトラックに投げ込みました。すぐにそこを駆け上がりました。そして、小さなアデア博士が出てきます。彼の小さな古い心に神のご加護がありますように。彼は立派な男だ。そして彼は出てきます。私たちは一緒に食事をし、一緒に眠り、一緒に釣りをし、ただの親友でした。そして彼は出てきます。そして彼は病院を歩いてやって来ます。彼が私を見ているのを見て、彼の頬から大きな涙が落ち、彼が横を向いているのが見えました。そして私は部屋に駆け込みます。私は言いました、「どうしたの、博士？」私は言いました、「彼女はいなくなっています。」

彼は言いました、「私は彼女がそうだと信じています。」

私は言いました、「さあ、一緒に行きましょう、先生。」

彼は言いました、「ビル、私にそんなことを頼まないでください。」言った、「ホープは私の妹のようなものです。」“I—I—ここには入れないと言いました。頼まないでください—頼まないでください—。”

すると看護師がやって来て、「“来てください、ブランナム兄弟」と言いました。”言った、「ほら、この少量の薬を飲んでください。」

私は言いました、「いいえ、必要ありません。」

彼は言いました、「“さあ、ビリー。”そうすれば神経が落ち着くでしょう。”

私は言いました、「欲しくありません。」私は言いました、「いいえ。」

彼は言いました、「“看護師さん、あなたも彼と一緒に行きなさい。”」

ますね?”

私は言いました、“いいえ、ハニー。素敵ですね。”私は言いました、“まあ、大丈夫だよ。”

誰かが私の背中を叩くのを感じました。そして見てみると、一は医者のように見えました。彼は言いました、“こっちへ来なさい。”彼は言いました、“あなたは彼女の夫ですか?”」

そして私は言いました、“はい、先生。”

“ブランハム牧師ですか?”

私は言いました、“私は。”

彼は言いました、“そうですね、先生。このニュースをあなたに伝えたくないのですが、”は言いました、“あなたの妻は死にかけています。”“彼女を興奮させたりしないでください。”

私は言いました、“先生、もちろん違います。”

言った、“はい。”言った、“彼女は行くよ。”

そして私は言いました、“ああ、それは何ですか、博士?”

言った、“疾走する結核。”言った、“彼女はすぐに死ぬでしょう。”彼は言いました、“ただママ。…できるだけ彼女を気分良くさせてください。”彼は言いました、“そしてあなたの赤ちゃんは二人とも病気です。”。私はこの別の家で彼らの世話をしています。”

さて、私は戻って彼女に言いました。私は言いました、“ハニー、あなたは元気そうですね。”

56 そして、私の小さな医師の友人であるサム・アデア医師がジェファーソンビルにいます。彼が許してくれるとすぐに、私は彼らを家に連れ帰りました。そして、彼らは赤ちゃんが元気になるまでそこに横たわり、妻は徐々に去って行きました。ついに彼女を病院に連れて行きました。医者が彼女を見に来なければなりませんでした。何もできなかった。彼女は気胸の治療などあらゆる治療を受けました。何もできなかった。

そして、私がそこに立っていたとき、彼らは彼女の側面に穴を開け、そこに

笑いも、失敗も、貧しさも、

すべては過ぎ去る。

だからこそ、

私たちは来たるべき都を求めているのです。

ちよつと笑えて、

でもどこか温かい話ですね。

13 土曜日の夜になると、父が私たちを連れて町へ行きました。

食料品の支払いをして、あの小さなキャンディーの袋をもらうためです。

小さなジャージー・ワゴンがありました。

こちらでは“バックボード”と呼ぶのでしょうか。

荷台にはわらが敷いてありました。

寒い夜には、毛布にくるまって乗りました。

粉雪が舞う中を、ゆっくり町へ向かうのです。

店で支払いを済ませると、

あのキャンディーが出てきます。

小さな“アイルランドの子どもたち”が、

じっと目を輝かせて待っているのです。

キャンディーは、必ず公平に分けられました。

一本余れば、きちんと人数分に折られます。

青い目がずらりと並んで、

誰も損をしていないか、真剣に見つめている。

それから座って食べるのです。

でも、すぐには食べません。  
 噛みません。  
 もったいなかったからです。  
 あの一本のキャンディーは宝物でした。  
 少しなめて、  
 またしまつて、  
 少し休ませて、  
 またなめる。  
 時間を引き延ばすように。  
 ——貧しかった。  
 でも、喜びは大きかった。  
 今思えば、  
 あの一本のキャンディーが教えてくれたのは、  
 価値は値段ではないということ。  
 地上の家も、  
 地上の時間も、  
 地上の家族も、  
 すべて限りがあります。  
 だからこそ、  
 ひとつひとつが尊い。  
 そしてそれでもなお、  
 私たちは知っているのです。

私が降りると、通信指令員は私にこう言いました。“母親と病気の子供 2 人？インディアナ州コロンバスで先延ばしにしました。しかし、あなたはそれらに到達することはできません。” 言った、“水はこちら側から遮断されています。”

私は手をこすって泣きながら、「ああ、神様」と言いながら、道に戻り始めました。連れて行って。苦しませないで。しましょう。… 主よ、私を連れて行ってください。この苦しみを私に経験させないでください。”

道を歩いていると、男が車で私のところにやって来ました。彼は言いました、“あなたが何を探しているのか知っています。” 言った、“奥さんを探しているんですよね？”

私は言いました、“はい。”

彼は言いました、“私のことを知らないの？” 言った、“私はメアリー・メイと一緒にいきます。”

私は言いました、“はい、あなたのことを覚えています。”

“あなたの妻はインディアナ州コロンバスのバプテスト教会で亡くなっています。”

そして私は言いました、“確かにそうではありません。”

“はい、” “彼女は結核を患っています。” と言いました。そして言いました、“あなたは彼女のことさえ知らないでしょう。”。そして医者には彼女が死ぬだろうと言いました。彼女は私のガールフレンドのすぐ隣に横たわっています。” 彼は言いました。“あなたが行きたいなら、どうやってそこへ連れて行くかは知っています。”

そして私は言いました、“さて、行きましょう、兄弟。”

そして、その夜、その建物、バプテストに偶然出会ったときのことを覚えています。彼らは病院を作りました。彼らはどこにでも軍用簡易ベッドを持っていました。そして私はそこに走り込み、水の中を歩いた場所にブーツを履きました。そして私は叫び始めます、“ホープ、ホープ、どこにいるの、ハニー？どこにいるの？” すぐそばに。直接あそこを見ると、骨ばった古い手が上がっているのが見えました。彼女だった。私はすぐに彼女に駆け寄り、腕に抱き上げました。私は言いました、“子供たちは生きていますか？”

彼女は言いました、“はい。” 彼女は言いました、“私はひどい顔をしてい

ら、朝に会います。”それが私が人生で彼に会った最後の時でした。そうだね。彼はその後少しして立ち去った。

そして私は言いました、“希望はどこですか？”

言った、“わからない。”

そして私はそこに走って行き、政府の役人の一人に会いました。私は言いました、“先生、病院はどうなったのですか？”

言った、“全部そこを通過して流された。”

私は言いました、“すべてをやった—すべてをやった..溺れた人はいましたか？”

“いいえ、彼らはチャールズタウン行きの電車に乗りました。”

そして私は走って車に乗り、小さな街チャールズタウンに通じる高速道路62号線から出発しました。そして私がそこに出ると、ランカサンジ川を通過して約5マイルの水が流れ込み、それを遮断しました。

そして私はボートを取りに行きましたが、その水を突き刺すことさえできませんでした。そこから始めると、ボートがこのように回転します。そして、この角度に..を設定し、できる限りのガスを加えて、そのように波を打ちます。でも、とても大変だったので、あなたは森の側面を回って、私のボートをこの方向に投げ戻し、私は政府の後ろに戻りました。そして私は小さな島で捕まりました。そして私は何日もその島に座って考えていました。

彼らの中には、橋の下から架台が外れ、その列車に乗った妻、子供2人、全員が溺死したという人もいた。

私は思いました、“ああ、神様。”なんと緊張したのでしょうか。床を歩いたのですが、どうすればいいのかわかりませんでした。私は思いました、“ああ、もし彼らがいなくなったらどうするんだろう。”

55 そしてしばらくして、私が乗り越えるときすぐに一水が十分に落ちて、彼らは私を渡してくれました。チャールズタウンに着いた。探してた。

私は古い—私の古い友人に会いました。彼は言いました。“いいえ、その列車は流れ落ちませんでした。”“彼らは経験しましたが、どこにいるのかわかりません。”

ここには、永遠に続く都はない。

私たちは、来たるべき都を求めている。

懐かしいですね。

ちょっと胸が温かくなります。

14 私は、ちょっとした悪さもしていました。

自分のキャンディーを少しなめて、

紙に包んでポケットにしまっておくのです。

月曜日になってもまだ残っている。

また少しなめては、他の子たちに言うのです。

「まだあるんだぞ。うらやましいだろ？」

ポケットの中で、土もキャンディーも一緒に転がっていましたが……

それでも、あれは本当においしかった。

今なら、明日にでもハーシーのチョコレートを買えます。

でも、あの味には決してかなわない。

あれこそ、本物のキャンディーでした。

あの頃の日々を思い出します。

なんと輝いていたことでしょう。

やがて学校が始まると、私たちは学校へ行きました。

でも、ほとんど着る服がなかった。

どうにか、やっとのことで学校に行ける程度の服しかありませんでした。

——豊かさとは何でしょう。

物がたくさんあることではない。

記憶の中で、あの小さな喜びが今も輝いていること。

そしてそのすべてが、今は過ぎ去ったこと。

だからこそ、この言葉が胸に響きます。

ここには、永遠に続く都はない。

私たちは、来たるべき都を求めている。

地上のキャンディーも、

地上の家も、

地上の父も、母も、兄弟も、

みな過ぎていく。

でも、失われない都がある。

そこでは、もう別れも、欠乏もありません。

少し切ないけれど、

どこか温かいですね。

15 冬の間じゅう、学校へ行くとき、

片足には母の靴、もう片足には父の靴を履いていました。

本当です。

「ブーツ・アンド・ギャガー」と呼んでいました。

こんな話をするのはつらいですが、事実です。

その冬、私はシャツを持っていませんでした。

道の上に住んでいた裕福なワーサン夫人が、

小さなコートをくれました。

胸に小さな鷲のエンブレムがついたコートです。

ロープやボートを揺さぶるために手を水の中に走らせなければならなかったとき。。それから私は小川に出ましたが、それを始めることができませんでした。私たちは下に浮かびました。そのマーケットストリートに出ました。大きな波が横に飛び交い、今にも一番下に行くだろうと思いました。

私は知っていました;そこで私はそのボートの中でひざまずきました。私は言いました、“ああ、神様。私はあなたに従わなかったことを知っています。”

そして、友人たちよ、もし私があの人たちが私を呼び寄せたときにそこに戻っていたら、癒しの賜物はそこに現れていただろうと私は信じています。それが神の計画でした。しかし、私は神が私に言われたことを実行できませんでした。私は神が私に言われたことではなく、人々が私に言ったことに耳を傾けました。決してそんなことしないで。あなたは神の言うことに従います。そして悲しみが続きました。

53 そして私は祈りました。私は言いました、「“神よ、私はあなたに従わなかったことを知っています。”。助けてくれれば。死にたくない。この川で溺れたくない。お願いします、神様、このモーターを始動させてください。していただけますか?”

そして、私はその紐を引っ張ると、氷が凍りつきました。そしてそれは数回ゴクゴク音を立て、ボートは引き裂かれ、ジャンプし、そのように飛び跳ねました。メインの流れに乗って出てきました。自分に何が起こるか分かりませんでした。そして、私は何度も試してみましたが、それは始まりませんでした。

そしてまた祈りました。私は言いました、「“神様、私の可哀想な妻が病気でそこに横たわっています。”。赤ちゃんたちは病気で、ここで私は川で溺れてしまいました。神よ、私に何ができるのでしょうか。”そして私は言いました、“主よ、もしあなたが私を助けてくださるなら。”

そしてまた紐を引っ張ると、紐は消えてしまいました。ああ、私の。私は川に入り、川から出て、クラークスビルに向かってずっと下って—come に乗り込みました。そして私は戻ってきて、立ち上がってトラックに着きました。そして彼らの中には、「“堤防が決壊したとき、政府が流されたばかりだということをご存知ですか?”」と言う人もいました 病院へ全力で出かけました。

54 そこでジョージ・デアーク兄弟に会いました。彼は言いました、“ああ、ビリー兄弟(私の周りに腕を回してください。)”彼は言いました、“状況は近づいているようです。”彼は言いました。“ビル兄弟、もし二度とあなたに会えなかった

言った、“いいえ、それはただ。…”

私は言いました、“彼女は間違いなく死ぬでしょう。”

私の赤ちゃんたちは二人とも病気で、洪水が起きてすべてが起り、家が倒壊して押し寄せ、何マイルにもわたる水が国中を席卷しました。そして彼らは私の妻を病院、公立病院、臨時病院に連れて行きました。

そして私はパトロール任務に就いていました。そして私は通りを行ったり来たりして、人々を連れ出そうとしていました。

51 そして、ある恐ろしい夜を決して忘れません。ああ、神様、考えてみると、あの重要な時期に。私はそこにトラック、小さなパトカーを持っていて、ボートに乗っていました。そして私は道を上っていきます。すると誰かが言いました。“チェスナット通りでは、堤防が突破されようとしています。”そして言いました。“あそこに慈悲を求めて叫んでいる女性がいますが、誰も彼女に近づくことはできません。”

そうですね、私は川で育ち、一ボートでかなりうまくやれると思いました。それで私はボートを手に入れて水の中に置き、出発しました。

そしてあそこを見ると、その母親の声が聞こえました。夜の11時頃、ただ叫んでいた、“マーシー。助けて。助けて。” ポーチに立っています。

そして私はそこに上がってボートを渡ろうとしました。そしてずっと下って反対側から出てきて、水が通りを流れ落ちました。またずっと戻って試してみました。そして最後に、ポストにぶつかりました。

そして母親は気を失った。私は彼女を迎えに行き、ボートに乗せました。4、5人の幼い子供たちをボートに乗せて、戻ってようやく岸に着きました。そしてちょうど私たちが岸に着いたとき、誰かが言いました、“私の赤ちゃん、私の赤ちゃん。”

そうですね、女性がそこに小さな赤ちゃんを残したと思ったので、戻ってきました。そしてちょうどそこに着いたとき、私は家の中を走りました。調べに来てください、彼女..赤ちゃん..そこにいる2、3歳くらいの小さな女の子、そしてそれが彼女が話していた人ですが、私はそれを知りませんでした。

52 そして私はそこにいましたが、チェスナット通りの堤防が決壊し、土砂降りになり、建物は消えていきました。そしてちょうど私がボートに飛び乗ったとき、

私はそれをぎゅっと引き上げて、

学校へ行きました。

教室に座っていると、少し暖かくなってきました。

先生が言いました。

「ウィリアム。」

「はい、先生。」

「暑くないの？ コートを脱ぎなさい。」

私は脱げませんでした。

中にシャツを着ていなかったからです。

「いえ、先生……ちよっと寒いんです。」

教室の横には大きなストーブがありました。

「風邪をひくわよ。あのストーブのそばに行きなさい。」

私はそこに座りました。

顔から汗が流れ落ちました。

「まだ寒いのか？」

「いいえ、先生。」

本当は暑くてたまりませんでした。

でも、コートを脱ぐことはできませんでした。

中にシャツがなかったのです。

——胸に来ますね。

貧しさ。

恥ずかしさ。

でも、それでも学校へ行った。  
 そしてそのすべてが、今は過ぎ去っています。  
 ここには、永遠に続く都はない。  
 あの教室も、  
 あのストーブも、  
 あのコートも、  
 すべては思い出です。  
 でもその記憶が、  
 永遠の都への憧れを、  
 もっと深くしているのかもしれない。  
 地上では寒さも、恥も、欠乏もある。  
 けれど、来たるべき都にはありません。  
 だから私たちは求めるのです。

16 そして春になったとき、私は初めて“自分のシャツ”を手に入れました。  
 いとこのルシール・ヘアという女の子がいました。  
 父の姉妹の娘です。  
 遊びに来て、帰るときに一枚のワンピースを置いていきました。  
 私はそのスカート部分を切り取り、  
 上の部分をシャツとして着たのです。  
 それを着て学校へ行きました。  
 そして、その服にはあの縁取りが付いていました。  
 波のように、上下にジグザグと縫いつける飾り。

に家に駆け寄り、そのように彼を腕に抱き上げ、彼はそのように私を見上げ、微笑みました。医者が彼に薬を投与し、彼は死亡した。心臓にストリキニーネを1回過剰摂取し、死亡した。

「もちろん、それについては何も言われていません。」葬儀屋は時々医師の間違いを隠蔽します。医師に対して私が得たものは何もありませんが、それについては何も言われていないと言います。

49 しかし、少し前にここにいるある女性は、亡くなった赤ちゃんのためにカリフォルニアで神を信賴し、全国のすべての新聞や雑誌がそれを詰め込みました。そして、人が救い出すのに十分な信仰を持っていなかったのと同じ時期に、すべての雑誌や新聞が誰もがそれを批判し、神は何千人もの人を癒しました、そしてあなたはそれを新聞に載せるために彼らにお金を払わなければなりません、あるいはそのようなことです。

でもここを見て。一つ言わせてください。聖書はこう言っています。“さあ、一緒に考えましょう。” そうか？聞く。神の癒しは信賴できない、などなど人々に伝える写真が全国に詰めかけていたのと同時に、医師は何千回も何千件もの症例を失い、それについては何も語られませんでした。そうじゃないか？

聞く。理性を集めてください。ガチョウのソースはガンダーのソースでもあります。それは……そして、言っておきますが、もし一人の人が回復するのに十分な信仰を持たずに神の癒しによって失われ、全員が狂信の烙印を押されたとしたら、医師が一つの症例で負けた場合は、それを狂信の烙印を押してください。ガチョウのソースはガンダーのためのものです。そうか？そうだね。

しかし、友人たちよ、医学と牧師たちは、私たち全員が人々の利益と神の栄光のために働き、協力していることを知りながら、団結して協力すべきです。それが私たちがすべきことです。

50 しかし、いずれにせよ、父はあの時この医者によって殺され、薬を過剰摂取させられ、それが彼を殺したのです。そしてすぐに、兄は車の横に乗っていて、首を骨折し、もう一人の兄の腕の中で亡くなりました。義理の妹が亡くなりました。妻が病気になり、…

ああ、1937年の洪水が起こり、悲しみがありました。決して忘れない。妻はちょうど死の時点で横たわっていた。私は行って、彼女のために祈り、知っていることをすべてやっていました。そして祈るたびに、こんな感じでした。… 私は行って教会に話しました。私は言いました、“彼女は死ぬでしょう。”

と一緒にいます。」私は言いました、「それが方法です。」彼は言いました。…私は言いました、「一緒に行きませんか？」

彼女、彼女の心を祝福してください。彼女は言いました。「はい、私はあなたと一緒にいます。」

それで私は行ってママに言いました。そしてママは言いました、「大丈夫だよ、ハニー。そう感じたら。」

47 そうですね、私は行って彼女の母親に言わなければなりませんでした。そしてそれはあまりうまくいきませんでした。彼女は言いました、「ウィリアム。」彼女は言いました、「彼女はあなたの妻です。望むなら彼女を連れて行ってもいいよ。」しかし、こう言いました。「娘がああゴミの群れの中に麻薬を撒き散らしたくないのです。」あ。ゴミ？

友人たちよ、私は彼女がゴミだと思っていたものが最高のものだということを知った。そうだね。そして私は敬意を持ってそう言います。

言った、「あれだけ持ち歩いて、叫んで、あれだけ持ち続けるような場所。」「“そこに行って牧師になってみませんか」と言いました。そしていつか彼らはあなたに牧師館を建てたり、そういうことをするでしょう。」

それはそうではありませんでした。。ああ、私の。それでホープは泣き始めます。それで私は言いました、「まあ…」

彼女は言いました、「私も一緒に行きます。」

でも、とにかく、私は望んでいませんでした。。彼女は「それは彼女を傷つけるだろうから、私はただそれを手放した」と言い続けました。

友人よ、あ。ゴミと一緒にいるには良すぎた小さな女の子、私はその少し後に彼女を埋葬しました。悲しみがそこに芽生えました。

48 残り数分、約15分だけ急ぎます。悲しみが私を襲った場所があります。さて、あなたは私の。..私の間違いをあなたの利益にしてくださいました。私が苦しまなければならなかったものによって、あなたは繁栄します。時々、私がプラットフォームに立って笑っているのが見えます。それは..その下に何かあるのかわからないということです。そうだね。言っておきますが、神だけが知っている代償が支払われました。

すぐに妻が病気になりました。まず、パパを亡くしました。私は彼に会うため

名前がなかなか出てこなかったけれど……そう、リックラック。服のあちこちに、そのリックラックが縫いつけてあったのです。

男の子が、女の子のワンピースの上半分を着て、

リックラックの付いた“シャツ”で学校へ行く。

でも、それが私の“初めてのシャツ”でした。

きっと周りから見れば、みすぼらしかったでしょう。

でも、私にとっては宝物でした。

——こうして思い返すと、

貧しさは確かにあった。

けれど、その一つ一つが、

今は心の中で光っています。

あの家も、

あの父も、

あの学校も、

すべては過ぎ去りました。

ここには、永遠に続く都はない。

でも、来たるべき都がある。

地上では、つぎはぎの服を着ることもある。

恥を感じることもある。

でも、やがて来る都では、

神ご自身が私たちを覆ってくださる。

少し切ないけれど、

どこかあたたかい話ですね。

若い人たちには想像しにくいかもしれませんが、

そういう時代もあったのです。

17 丘を「リビティ、リビティ」と滑り降りていました。

他の子たちはちゃんとしたそりを持っていましたが、

私たちは古い洗い桶で滑っていたのです。

それでも、ちゃんと滑っていましたよ。

どんな道具でも、楽しいものです。

でも、しばらくすると桶の底が抜けてしまいました。

それで、そりは終わり。

今度は川辺へ行って、大きな丸太を見つけ、

針金をくくりつけて丘の上まで引っ張り上げました。

そしてその丸太にまたがって、丘を滑り降りたのです。

忘れられない出来事もありました。

ロイド・フォードという少年がいました。

(グラハム兄弟、どこかにおられますね。私の副牧師です。)

あれは戦争の時代でした。

ロイドは雑誌を売る仕事を始めました。

“パスファインダー”とか、そういう名前の雑誌です。

そして彼はボーイスカウトの制服を着ていました。

当時はどこも戦争一色。

軍隊、兵士、制服。

そして彼は言いました、「あなたは伝道者だと言っているのを聞きました。」。テキサスでの2週間のリバイバル公演にあなたを登録したいと思います。”

彼の名前を名乗った。私は言いました、“ああ、主よ。あなたはただ私のために素晴らしいことをしてくれているだけです。”それをすべて削除しました。

46 小さなゴルフ用のズボンを履いた小さな小さな男が近づいてきて、「“私はフロリダ出身です”と言いました。数週間そこにいてほしいです。”

まあ、結局のところ彼らはただの普通の人々だということは分かりました。それでまずインド人が。… インディアン居留地から女性がやって来て、私に行きたくてほしいと言いました。そうですね、招待状は1年ほど持つのに十分な量がありました。ああ、私はあの古いフォードに飛び乗ったんだけど、半分後退して、道を進んでしまったんだ。

私は家に駆け込み、妻が私に会って、こう言いました。“ああ、ハニー、言いたいことがあります。私は最高の人々に会いました。”私は言いました、“私の、ただ叫び、叫び、飛び跳ねる人たちです。彼らは自分たちの宗教を恥じていません。”私は言いました、“私の、あなたが今まで見た中で最高のものです。”

彼女は言いました、“彼らはどこにいるの?”

そして私は彼女に言いました。私は言いました、“ここを見てください。ここに文字列全体があります。”私は言いました、“まあ、私はただ説教して説教して説教するだけです。”そして、ご存知のとおり、彼らは私を受け入れてくれました。”

と言いました、“そうですか?”

私は言いました、“見て。仕事を辞めてすぐに始めるつもりです。”

彼女は言いました。“まあ、私たちにはお金がないんです。”

私は言いました、“いくらお金をもらいましたか?”

“フォードで12ドル支払いました。”

私は言いました、“そうですね、聖書には「行くときは何も取らないでください」と書かれていました。ほら?台本を受け取らないでください。コートを2枚持っている場合は、1枚を兄弟に渡してください。”彼は言いました。「私はあなた

見てください。”

彼は言いました、「“彼らはあなたが何をしたか気にしません。”。彼らはあなたの話を聞きたいのです。”

そして私は言いました、“ほら、そこには上がれないよ。” 私は言いました、“私はしません。。じっとしててください。”

そして彼は言いました、“どこにいるか知っている人がいたら..”

彼は言いました、“彼はここにいます。彼はここにいます。” ふう。“彼はここにいます。”

私は思いました、“ああ、私の。” 心臓がドキドキして、膝が本当に弱くなり、腕が落ちそうになるのを感じました。そうですね、何かが私を迎えに来てくれたように見えました、そしてここで私は同じように意識を持って、シアサッカーパンツとTシャツを着て歩きました。

私はそこに上がって言いました、“皆さん、私はあまり知りません..” 彼らの前で、本当に説教できる説教者たち、ああ、なんてことだ。私は言いました、“私はただ言いたいのですが、私はイエスを愛しています、そして一そして、ええと一そして、ええと一そして、ええと..” そうですね、そういう感じです。

そして彼は言いました。… 私が歩き始めると、彼は言いました。“そうですね、少し話してください、ブラナム兄弟。”

45 私はひっくり返って言いました、“I—I—何を言えばいいのか分かりません。” そして私はたまたまテキストを思いつきました、“そして彼は泣きました。” 金持ちは.. 彼が地獄で目を上げたとき。そして私はそのテキストを受け取りました、“そして彼は泣きました。” そして私が話をすると、まず何かが私を襲ったのです。ああ、私はしばらくの間、この世から迷い出ていました。そして誰もが叫び始めました。

礼拝が終わると外に出ると、テキサス出身のとても大きな男が、カウボーイブーツを履き、大きなカウボーイハットをかぶってこう言いました。“私は説教者です。”

私は思いました、“そうですね、兄弟、私のシアサッカーズボン結局のところそれほど悪くありません。彼はカウボーイブーツと大きなカウボーイハットを持っていて、説教者だったのですか?”

ああ、どれほど兵隊のような格好をしたかったことか。

貧しい子どもが、

丘を丸太で滑りながら、

兵士の制服に憧れていた。

でもそれもまた、過ぎ去りました。

洗い桶も、丸太も、

あの戦争も、

少年時代も。

ここには、永遠に続く都はない。

どんな夢も、どんな憧れも、

地上では移り変わります。

けれど、やがて来る都には、

争いも、欠乏もありません。

少年の憧れは消えても、

永遠の希望は消えないのです。

18 兵站部から兵士たちが行進してくるのを、よく見ていました。

背筋を伸ばし、敬礼しながら、まっすぐに歩いていく姿。

学校には古いサツサフラスの柱があって、そこに旗を掲げていました。

兵士たちは通るたびに、その旗に敬礼しました。

私は胸が高鳴りました。

「大きくなったら、軍隊に入るんだ。

そうすれば、ちゃんとした服が着られる。

兵隊になれたら——」

でも、いざ年齢が来たとき、私は痩せすぎでした。

体格が足りず、軍隊は受け入れてくれなかったのです。

しかし——

ある方が、私を受け入れてくださった。

今、私は軍隊に属しています。

あなたには制服が見えないかもしれません。

でも私は、それを着ていると知っています。

それは外側ではなく、内側にあります。

私は、主の軍隊に属しているのです。

地上の軍隊は私を拒みました。

けれど、天の王は私を拒まなかった。

これもまた、この言葉につながります。

ここには、永遠に続く都はない。

しかし、来たるべき都がある。

地上の制服は着られなかった。

でも、内なる召しは与えられた。

なんとも力強い証しですね。

19 戦争のとき、私は志願しました。

何度も申し出ました。

でも受け入れられませんでした。

召集もかからなかった。

ここでは誰も知りませんでした。小さな男、彼の名前が何だったか忘れてしまいました。彼はバイオリンを弾きました、少し巻き毛の男です。

44 そして翌朝、私は中に入って降りました。それでしばらくして、私が見渡すと、別の男が入ってきて座りました。有色人種の男が私のそばに座り、大勢の人々がそこに座っていました。それで私はそこに設定していて、これは.. 彼らは言いました。“サービスを開始します。”そして彼らは話したり、文学を作ったり、売ったりしていました。そして彼は言いました。“昨夜、壇上にはジェファソンビル出身のブランナムという牧師がいました。”“彼はプラットフォーム上で最年少の男性でした。彼に朝のメッセージを持ってきてほしいのです。”

マーシー、マイクさえ見たことがありません。彼らはそこにマイクを持っていました。と思いました、“何? まあ、できませんでした.. シアサッカーパンツとTシャツ。”私はこのように、本当に低く身をかがめました。

彼は再びこう発表した。「“ジェファソンビルのウィリアム・ブランナムがどこにいるか知っている人はいますか?”」“私たちは彼にメッセージを持ってきてほしいと言いました。”1500人がそこに着きそうになりました。私じゃないその前は。私はただそこに後退しただけです。いいえ先生。これ... 私は田舎者すぎてそこに登ることができませんでした。だから、私はそこに本当に低い値を設定しました。それで... そして彼はそれを2、3回発表しました。“外にいる人は、ウィリアム・ブランナムを呼び出します。”

と思いました。何かが私に言いました、「昨夜あなたが祈ったのはそれです」。彼らと知り合いになりたいなら、そこに上がってください。”

“主よ、私にはそれができません、シアサッカーパンツとTシャツ。”私は言いました、“うーん。”それで私はそこに設定していました。

そして彼は.. 再びそれを発表したとき、この有色人種の男が私を見てこう言いました。“あの男を知っていますか?”

ああ、私の。その場で話してください。私はそう言った.. 私は嘘をつくか、彼に一言わなければならないことを知っていました。私は言いました、“ほら、おい、見てください。さあ、これを自分の中に留めておいてください。”私は言いました、“私は彼です。ほら? しかし...”

彼は言いました。“さあ、白人よ、そこに上がれ。”

私は言いました、“いいえ。”私は言いました、“乗りました.. このパンツを

そして、彼らは南部では会議が開催されなかったため、そこで会議を開催しなければなりません。なぜなら、彼らは有色人種と白人の両方を一緒に持っていたからです。

42 そして、その老人はそこに立っていました。そしてその日の牧師たちは皆、イエスのなされたことなどについて説教していました。しかし、彼は決して連れて行かなかった。彼はヨブのどこかからテキストを受け取りました。そこにはこう書かれていました。“私が世界の基礎を築き、明けの明星と一緒に歌い、神の子たちが喜びの叫び声を上げたとき、あなたはどこにいましたか？” さて、牧師たちが教会の活動を地上に持ち込んでいたところで、彼は向こうの天に上がり、世界が形成される約1,000万年前に鉛直に降りてきて、彼と一緒に水平の虹を下って戻ってきました。

そして、彼がそこに降りる頃、彼は大きな叫び声を上げ、飛び上がってかかとを鳴らして言いました、「“神に栄光あれ”。ここには私が説教できるほどのスペースがありません。”

それを見た。私は言いました、“まあ、それであの老人があんなふうになるか？” 私は言いました、“そのいくつかが欲しいです。それが私が望んでいることです。もし老人がそんな風になるなら、私にとってはどんなことになるでしょうか？”

それで私はその夜トウモロコシ畑に出て、祈り始めました。私は言いました、“主よ、それを少しもらいましょう。” そこで私は言いました、“あなたは私に彼らの人々に好意を寄せてくれます。” そして夜、トウモロコシ畑で祈りを捧げました。

43 私は...シアサッカーパンツを持っていました。私の他の人たちは...トウモロコシ畑で汚れてしまいました。そこで私はそれらを座席に置き、2つの座席を取り出して車から出し、その夜ズボンを押しました。そして私は小さなシアサッカーシャツを着ていました。誰も私のことを知らなかったのも、ただそこに置きました。シアサッカーシャツと小さな古いTシャツ、そしてシアサッカーズボンです。私はそれらをそこに横たえました。翌朝、私は起きて、みんなを輝かせました。

会議は10時に始まります。彼らは朝食後に朝食をとりました。そして、お金がなかったので、彼らと一緒に食事をするつもりはありませんでした。ただ彼らと一緒に食事をしなかっただけです。しかし、彼らは私を歓迎してくれました。そ

牧師の分類に入れられただけで、結局呼ばれなかったのです。教育が足りなかったのでしょうか。

従軍牧師に分類するには学歴が不十分だったのだと思います。

牧師でありながら、兵士としても徴兵されなかった。

私は“外された”のです。

でも——

どういうわけか、

痩せていて、学もなく、何も誇れるものがなくても、

ある日、神が募集をかけられた。

そして私は、その召しに応えました。

今、私は主の軍隊にいます。

そしてできる限りのことをしています。

人類史上、最大の戦いに加わるために。

それは国と国の戦いではありません。

罪と悪に対する戦い。

そして義のための戦い。

地上の軍は私を拒んだ。

でも天の王は、拒まなかった。

ここには永遠に続く都はない。

だからこそ、この戦いは一時のものです。

けれど、義の都は来ます。

そしてその都では、

もう戦いはありません。

今は戦うとき。

やがては平和の都へ。

なんと不思議な導きでしょう。

20 ロイドに頼んだことを覚えています。

「その制服、着古したら僕に出来ないか？」

彼は言いました。

「いいよ、あげるよ。」

私はずっと待っていました。

あんなに長持ちする服は見たことがありませんでした。

ある日、彼がそれを着ていないのを見て、聞きました。

「ロイド、あの服はどうなったんだい？」

彼は探し回って、こう言いました。

「ビリー、母さんが父さんの服のつぎ当てに使ったんだ。それから犬が寝床にして、引きずっていった。残ってるのは片方のレギンスだけだよ。」

私は言いました。

「それをくれ。」

それは小さな、側面がひもで締めるタイプのレギンスでした。

私はそれを家のまわりで履きました。

片足だけ。

でも、どれほど誇らしかったことか。

「なんて格好いいんだろう。」

本当にうれしかった。

彼らは叫び、叫び、そして続けました。私は思いました、“一体何なの？”そこを見回すと、幕屋がありました。…

その男の名前を知っている人もいるかもしれませんが。彼の名前はロウ、ロウ牧師です。ここにいる誰かロウ牧師を知っていますか？そして…。はい、ここにいる誰かが彼のことを知っています。ロウ牧師、それは彼の教会にありました。

まあ、彼らはただ手をたたいて、続けて、踊っていただけです。それで、なぜ私はこう言ったのでしょうか。“教会で踊る人たちって、ひどくないですか？”私は言いました、“まあ、それは残念です。”そして、私は確かに軽蔑的な立場に置かれていました。それで私は思いました。…でも、何かが私を少し掴んだんです。そして私は思いました、“さて、今。”

41 お金を数えています。私は持っていました—残り2ドル15セントでした。そして私は外に出て…思った、“さて、お金がないので観光裁判所には泊まるのができません。でも、私は泊まるつもりです。家に帰るためのガソリンを買うのに十分なお金ができました。”それで私はその夜外に出てトウモロコシ畑で寝ました。そして、私は知っていましたが、あまり良い服を持っていませんでした。そして翌朝、なぜ礼拝に行ったのか。

そしてその日、ああ、牧師たちが説教していました。。そして、その夜、彼らが電話してこう言ったことに私は気づきました。“説教者は皆壇上に来ます。”百五十人、さらに多くの説教者が壇上に上がってきます。彼らは会議、国際会議を開催していました。彼らは皆、プラットフォーム上に設定していました。

彼は言いました。“皆さんが証言する時間はありません。”上がった。彼は言いました。“誰で、どこから来たのか言ってください。”

そして私は言いました、“伝道者、ウィリアム・ブランナム、ジェファーソンビル”は降りました。

そうですね、調べてみると、私は彼らのグループの中で最年少の牧師でした。それでその夜、私はこう思いました。。彼らは…を持っていました。彼らはあらゆる種類の説教者を連れてきました。そして彼らは、その夜のメッセージを持ってくる有色人種の老人を選んだ。それは、本当に年老いていて、頭の周りにほんの少しの毛が生えているだけだった。彼は古い説教者のコートを着ていて、バルベットの襟、一種の切り取られたコートを着ていました。かわいそうな老人がこのようにプラットフォームに出てきます。そしてああ、とても残念だったので、立ち上がって老人を助けたいと思いました。そして彼は出てきます。…

38 しかし、友人たちよ、それは地上の楽園と同じでした。私たちはお互いに会いました。その時、私は回心し、牧師になり、説教をしていました。そして、心から主を愛し、私たちはお互いを愛していました。そして、私たちが気にかけていたのはそれだけでした。

そして聞いてください。幸福とは、あなたが世界の商品をどれだけ所有しているかではなく、割り当てられた部分にどれだけ満足しているかによって決まります。そうだね。それを覚えておいてください。それが私たちが持っていたすべてです。私たちは幸せで素敵でした。私はそこに小さな教会を持っていました、彼らは私のために建てました；小さな幕屋は今日でも記念碑として立っています。そして、私たちは皆、単純な福音を聞くために、遠くからも近くからも、国中から大勢の人々がやって来ます。そして私たちはただ素晴らしいことをしていました。

39 そして、私たちの家に素敵な男の子が生まれたのを覚えています。私は彼をビリー ポールと呼んでいます。私がアーカンソー州をここから出たらすぐに、カールスバッドでの次の会議に彼と一緒にいてほしいと思っています。それで、彼は今14歳です。そして少し後、11か月が経ち、シャロン・ローズという名前の別の素敵な小さな甘いものがやって来ました。

ビリーが生まれる直前、私たちは十分なお金を貯めていましたが、私が少し休暇を取りたいと思うまで。そして私たちは… 私はミシガン州ドワジアックに会議に行き、ジョン・ライアンという名前の白いひげと白い髪をした老人と一をしました。

それで私はそこへ行きました。そして帰路、帰路、ミシワカを通過したとき、いたるところで大勢の人が集まる看板が見えました。私は思いました、“あの人たちは何ですか。”そしてそこに行ったのですが、Tモデルフォードにいくつか、キャデラックにいくつかありました。そして彼らは私に、彼らは..と言いました何も行けず、泊まる場所もありませんでした。そして彼らはあなたが..と言いましたここで会議が行われています。ペンテコステ派の人々は会議を開いています。JCのPAは、P—Pだったと思います。ペンテコステのJC宗派のA。がそれを呼んだ。

40 まあ、いろんな人を見たけどね。私は思いました、“そうですね、それは宗教的な集会です。入ると信じて。”

そうですね、私はこれまでの人生でこれほど多くの騒音を聞いたことはありませんでした。それで… ああ、教会のマナーにはそれがありませんでした。

学校にも履いていきたかった。

でも、片足だけのレギンスをどうやって見せればいいのか分からなかった。だから、コートの内側に隠しました。

—

少年の誇り。

ほんの小さな、たった一つのレギンス。

それでも、心はいっぱいでした。

今思えば、

それは制服ではなかった。

でもその後、神は私に別の制服を着せてくださった。

外からは見えないけれど、

内側にある制服。

ここには永遠に続く都はない。

片足のレギンスも、古い制服も、過ぎ去った。

でも、主の軍隊の制服は、

永遠の都へと続いているのです。

ちょっと胸がきゅっとしますね。

21 ある日、その丸太で丘を滑っていて、勢いよく転びました。

立ち上がって言いました。

「いたた……足がひどく痛い。」

靴下には大きな穴があいていました。

私は思いついたのです。

「そうだ、コートの中にボーイスカウトのレギンスがある。」

それを取り出して、片足だけにつけました。

少し足を引きずりながら学校へ入りましたが、

本当はみんなに見せたかったのです、そのレギンスを。

黒板に出て問題を解くことになりました。

片足しかつけていないのがばれないように、

レギンスのある側を前にして横向きに立ち、

こんなふうにして問題を解きました。

ちらっと振り返ると――

みんなが見ていました。

そして笑い始めました。

私は泣き出してしまい、席に戻されました。

でも、そのとき心のどこかに、何かが残りました。

今、私はもう恥じることのないレギンスを履いています。

それは、

イエス・キリストの福音です。

外からは見えないかもしれません。

でも、私はそれを誇りにしています。

あの片足のレギンスは笑われました。

けれど今のこの装いは、永遠の都へ続くものです。

子ども時代には、まだまだ語りきれない出来事がたくさんありました。

時間があれば、もっと話したいところです。

は言いました、“ちょっとだけここに出てきてください。” ポーチに出て行くと、私はただ汗をかき、震えていました。彼は言いました。… 私は言いました、“チャーリー、” 私は言いました、“I―あなたに何か聞きたいことがあります。”

彼は言いました、「“ああ、彼女を飼ってもいいよ、ビル”。さあ、彼女に優しくしてください。”

ああ、私の。私は今日に至るまで彼を愛しています。私は言いました、“チャーリー、私はあなたのように彼女を生業にすることはできません。あなたが彼女に買ってあげられるような服を彼女にあげることはできません。でも、私はあなたにこれを約束します。私は心から彼女を愛します。彼女を生業にするために、手が血を流すまで働きます。そして私は、自分が知っている限り彼女に忠実であり続けるでしょう。”

彼は自分のものを置きました。。ドイツ人だった。彼は私に大きな手を置きました。彼は言いました。“ビル、大金を持っている人が彼女を意地悪に扱うより、あなたが彼女を手に入れて優しくしてくれるほうがいいよ。”

私は言いました、“ありがとう、チャーリー。”

37 私たちは結婚しました。ハウスキーピングを始めるものは何もありませんでした。私たちが持っていた唯一のもの。… 私たちが持っていたものを教えてください。私が借りていた小さな古い場所。家賃は月に4ドルかかりました。そして、私はその少し古い場所に行きました、そして誰かが私たちに昔ながらの折りたたみベッドをくれました。あの古い折りたたみベッドを覚えていますか？ ストローマットレス、ストローティック。… そして…… そして、シアーズとローバックから買った小さな古いテーブルと椅子がありました。私たちはそれを自分たちで塗装しなければなりませんでした。それで私はそれを描きました。そして、ジョニー・ジョバーズからもらったリノリウムの敷物が2枚ありました。それはジェファーンソンビルへの単なる中古品でした。私はジョン・ジョバーズがその恩恵を受けることができるように言いました。それで私たちは.. 1個あたり1ドル4分の1の値段だったと思います。

そして私はウェバー氏のところへ行きました。彼はジャンクディーラーで、調理用ストーブを購入しました。そして、私は彼に1ドルと何かを与え、格子を入れるために1ドル75セントを支払わなければなりませんでした。私は公共サービス会社からアイスボックスを50セントで手に入れましたが、そのうちの1つは彼らが交換で引き取ったものでした。私たちはハウスキーピングに行きました。

彼女は言いました、“大丈夫でした。”

ふう、私の。そして私は言いました、“全部読みましたか—読みましたか—読みましたか—読みましたか—?”

彼女は言いました。“はい、全部読みました。”

私は言いました、“どう思いましたか?”

彼女は言いました、“大丈夫でした。”

さて、私たちは結婚しました。そこだった。どうやってかは分かりません。私たちは結婚したばかりです。それで…

36 私の次の緊張は、彼女の母親とパパに尋ねなければならなかったときに起こりました。まあ、そうすることが適切であることはわかっていました。だから私はチャーリー・ブランバックを決して忘れないだろう。私が知っている限りでは、彼は今日の午後ここに来るかもしれません。そして彼女の母親はとても気取った女性でした。素晴らしい女性ですが、彼女は階級の上位に属していました。つまり、チャーリーはただの古き良き謙虚な兄弟だったのです。

そして私は彼に聞いて、彼に彼女に聞いてもらったほうがいいと思いました。彼は…それで、とにかく女性たちと話すよりも、男性とうまくやっていけると思いました。それで私は言いました…

ある夜、私が出発しようとしていたとき、ホープは言いました。“もうお父さんに聞いたの?”

そして私は言いました、“いいえ。”

彼女は言いました、“そうですね、あなた—そうすべきです。”

私は言いました、“そうすべきなのはわかっていますが、そうではありません。”

ホープは言いました、“大丈夫だと思います。”

それで、その夜私が出発しようとしたとき、彼はこう言いました。“また後でね、ビリー。”

私は言いました、“ハンフ、チャーリー。”彼は言いました。…私は言いました、“できますか—少しだけ話してもいいですか?”彼はこう言うでしょう。…私

地上では笑われることもある。

恥をかくこともある。

でも—

ここには、永遠に続く都はない。

私たちは来たるべき都を求めている。

そしてその都では、

もう片足だけの装いはありません。

22 少し前まで、テキサスでリバイバルが起こっていました。家に帰ると、そして…妻、私、そして赤ちゃんは道を上っていきました。そして、とても疲れていたの、落ちそうになりました。どうしても我慢できなかった。

そして家に帰る途中、私は車を運転していて、寝ていました。そして、私は約数マイル運転し、その後停止します。眠ろうとすると目が覚めてしまいました。そして、もう少し遠くまで運転すると、眠くなり、道路から外れそうになりました。そして私はやめます。私は思いました、“これはとても危険ですが、家に帰らなければなりません。”そして私は車の中で—lay down に横たわり、眠ろうとしました。

しばらくして目が覚めました、そして何が起こったのか知っていますか?私は車を運転し、道路から逃げ出し、牛の牧草地のずっと外で手を差し出してこう言いました。“お姉さん、信じてください。それだけやらなきゃ。もし癒されるなら、それを信じなさい。”ずっと牧草地で、私は道路から逃げ出し、野原を通して眠りにつきました。そして妻と私は、そこで大勢の人が待っています。それで私たちは車に乗って道を上っていきました。

23 あの古い校舎の前を通りました。

もう、ありません。

ここには、永遠に続く都はない。

その向かいには、かつてワーサンさんの運転手が住んでいました。

あの井戸のポンプから、どうしても水を飲みたくなったのです。

ちょうどダビデが、あの井戸の水を恋慕ったように。  
 私はポンプを押しました。  
 その間、妻と子どもたちはスマイルを摘んでいました。  
 私は古い柵にもたれかかり、  
 学校があった丘を見つめました。  
 春になると、あの砂糖カエデの木に穴を開け、  
 流れ出る樹液を吸ったものです。  
 目を閉じれば見えるようでした。  
 小さな男の子たちが肩に手をかけて列をつくり、  
 旗が掲げられ、  
 先生が長い柳の枝を持って、  
 まっすぐ並ぶように指示している。  
 丘の上には、かつての家。  
 今は住宅団地。  
 下には校舎があった場所。  
 今は何もない。  
 胸がいっぱいになりました。  
 すべてが消えていく。  
 形あるものは、残らない。  
 だからこそ、この言葉が響きます。  
 ここには、永遠に続く都はない。  
 しかし、私たちは来たるべき都を求めている。

た。

そして私は彼女を見て、こう思いました。“ああ、彼女はきれいじゃないですか。”そして私は…彼女は、きっとこれがすべてだと私に言うでしょう。なぜなら、彼女が私にこう言うだろうと分かっていたからです。“今夜以降は家にいてください。”それで、彼女が私に言おうとしていたことをすべて解決してもらいました、そして私は。

そして教会が終わった後、私たちは歩いて戻り始めました。とても月明かりの夜でした。私たちは通りを歩いていて、見上げると茂みの中から月が輝いていて、そのまま歩き続けました。そして私は彼女を見て、こう思いました。“ああ、これが最後の夜になるのは嫌だけど、これで終わりかな。”私は歩き続けて、「“今夜はどうですか?”」と言いました

彼女は言いました、“大丈夫です。元気か?”

“急いで、お嬢さん、と思いました。何か教えてください、私—私—は気を失う前に。家に近づきすぎないでください。”私たちはもう少し歩いて、私は言いました、“ふん、確かに素敵な夜でした。”

彼女は言いました、“はい、そうです。”

私は思いました、“まあ、なぜ…急いで、何か言ってください。”女性とはかく、あなたをそのサスペンスの下に閉じ込めることができます。

35 そして私は歩き続けました；“まあ、彼女はかなり家に近づいています。”私は言いました、“えー、えー…。えーつと……。今週はメールが届きましたか?”

彼女は言いました、“うーん。”それだけだった。

そして私は言いました、“えー、私の手紙を受け取りましたか?”

彼女は言いました、“うーん。”

ああ、ああ、ああ。その時私は確かにエネルギーを燃やしていました。そして私は言いました、“まあ、ええと..”私は言いました、“読みましたか—読みましたか?”

彼女は言いました、“うーん。”

私の、私—私は言いました、“どう思いましたか?”

月曜日の朝でした。箱に落としてしまった。そして一日中、私はそれについて考えていました。そして私は思いました、“今夜、ああ、ああ、今夜そこから聞かつもりです。彼女の母親が私に電話して、石炭をかき集めてくれるでしょう。”そして私は続けました。その夜は大丈夫でした。

33 そして私は水曜日に彼女に会い、教会に連れて行くことになっていました。それで思い出しました、それでは水曜日に向かって来てください。そして水曜日の夜、私も同じように緊張し、何をすればいいのかわかりませんでした。私は思いました、“そこに着いたらどうしよう？”そこで私は母に尋ねました。“ホープから電話がありましたか？”

“いいえ。”

“メールは届きましたか？”

“いいえ。”

“まあ、電話が切れて箱から出なかったのかもしれませんが。”そこで私は思いました、“ここで何かが起こっています。”

それで私は上がって、外でクラクションを鳴らしました。そして彼女は出てきます。彼女は言いました、“入ってください。”

そして私は思いました、“ああ、ああ、彼女のお母さんが今いる場所に私を連れて行って、それから本当にそれを手に入れるつもりです。”そこで私は言いました、“もう準備はできていますか？”

彼女は言いました。“教会まで歩いて行きましょう。”

私は思いました、“ああ、私の。”そこで私は言いました、“わかりました。”そして私は入りました。

そしてブランバック夫人は私を見て言いました。“こんにちは、ビル。”

私は言いました、“どうやってやるの。”だから、私はできる限り緊張していました。だから、いつでも何かが起こるだろうと思っていました。緊張しているときに自分がどう感じるかはわかります。

34 それで私たちは外に出て教会に行きました。正直に言うと、その夜デイビス兄弟が何を言ったのかさえ聞きませんでした。彼はただ説教しただけで、私は彼が何を言ったのかわかりませんでした。何かが起こるのではないかと怖かつ

思い出は残る。

でも場所は変わる。

時間は過ぎる。

でも約束は変わらない。

ちょっと胸に迫りますね。

でも、それがこの旅路の真実です。

24 私は思い返しました。

「ラルフ・フィールズはどこだ？……もういない。

ハワード・ヒギンズは？……亡くなった。

兄弟は？……行ってしまった。

父は？……いない。

チャールズは？……いない。

エドワードは？……いない。」

そして思いました。

「おお神よ。やがて誰かがこの地面を見て、

『ビルはどこだ？』と言う日が来る。

——いない。」

ここには、永遠に続く都はない。

胸がドキドキし始めました。

そして、兄にしてしまった小さな悪さを思い出しました。

若い人たち、

後で悔やむようなことはしてはいけません。

ある日、母が私たちにポップコーンを持たせてくれました。  
でも私たちは他の子どもたちと一緒に食べられませんでした。  
彼らはサンドイッチを持って来られたからです。  
私たちは丘を越えて、  
木の陰で食べました。  
小さな瓶があって、  
中には野菜と、横にコーンブレッドが一切れ。  
スプーンは二本。  
その瓶から二人で交互に食べ、  
パンも分け合いました。  
子どもたちの前では恥ずかしかったのです。  
だから丘の向こう、  
木の後ろで食べました。  
——  
貧しさはありました。  
恥ずかしさもありません。  
でも今思えば、  
あの分け合った一口は、  
どんなごちそうよりも温かかった。  
そして今は、  
その兄弟たちもいない。  
ここには、永遠に続く都はない。

友達の言うことを聞いてください。リングをつついて傷つけるのはコマドリではありません。リングを殺すのは核にある虫です。そういうこと。私たちの中にいる罪こそが私たちが傷つけているのです(そうです)、私たちの中にいる罪こそが私たちが殺しているのです。

31 さて、さて、あなたは私がどうやって結婚したのか疑問に思っていると思います。そうですね、私が妻に会ったとき、彼女はクリスチャンの女の子で、とても素敵なクリスチャンの女の子でした。そして当時私は23歳か24歳くらいでした。彼女はとても優しく謙虚な性格です。そして私は彼女に会いました。そして私は彼女を教会に連れて行き、彼女は教会に行きました。そして彼女はとても立派で素敵な女性でした。

ここにいる人々、私の目の前にいるジェファーソンビルの人たちは皆、彼女を知っている、あるいは知っていた、そして彼女がどれほど素敵な女性だったかを知っています。彼女は今日墓の中にいます。でも、それが彼女の体です。彼女の魂はキリストとともにあります。そして彼女はとても素敵なクリスチャンのキャラクターでした。

そして私はしばらく彼女と一緒にいました。そして彼女は良い家庭の出身です。彼女の父親は、大恐慌の時代に月に約600ドルを稼いでいました。彼はペンシルベニア鉄道の同胞団の主催者でした。私は溝を掘って1時間に20セント稼ぎました。だから私はその女の子と結婚できない、とは思わなかった。

32 そして私はこう思いました、“そうですね、これ以上彼女と一緒にいたら、私は彼女の時間を費やしていることになります。彼女は手放すにはあまりにも良い女の子でした。彼女はある男を良い妻にするだろう。”だから私は彼女を手放すか、結婚を申し込むかのどちらかしかできなかったのですが、私にはそうするほど勇気がありませんでした。それで、どうやって私が手に入れたのか不思議に思うと思います。私は彼女に手紙を書き、私と結婚してくれるかどうか尋ねました。そして私は言いました、“そうですね、私は...” さて、そうではありませんでした “親愛なるお嬢さん、私を持ってくれませんか。” それは、いわゆる、それよりも少しドロドロでした。そして、私は—I—彼女とちよつと話しました。

でもここは... 覚えています、私は思いました、“女の子の時間を取るのには正しくない、何かをしなければなりません。”それで私は彼女に手紙を書きました。

そして私はその朝仕事に行きました。私は公共サービス会社で働いていました。そして、私はそれを箱に落とすことに非常に緊張していました；それは

しかし、女性の皆さん、もしタバコを吸うなら、どうかタバコを避けてください。タバコを吸う女性としてはなんと安っぽく見えることでしょう。まあ、それは一番安いものだよ。いつでも彼女が酔っているのを見たいです。

29 そして聞いてください。あなたは妨害行為について話しています。ロシアがやって来て私たちを捕まえることを心配しないでください。ロシアは我々を傷つけるつもりはない；我々は自らを傷つけている。私たちが傷つけているのは、私たち自身の道徳的衰退です。私たちは自分自身を腐敗させています。

統計によると、医師によると、タバコを吸う子供を持つ女性の80パーセントは、赤ちゃんを本来あるべきように乳房まで育てれば、18か月以内に死亡すると考えています。それは母親の乳に含まれるニコチン毒である赤ちゃんを殺します。なぜ、妨害行為、第五コラムニスト。…？

私は今でも、この世界が今日必要としているのは新しい大統領ではなく、昔ながらの聖パウロの復活と、再び教会に戻る聖書の聖霊が必要だと言います。そうだと信じています。はい先生。まさにそれが必要なのです。

30 そして女性たちはどうやって喫煙できたのか。そして、女性がタバコを吸っているのを見るのはひどいことだと思いました。まあ、それは私の心を傷つけました。どうしても我慢できなかつた。私はそれとは何の関係も持ちたくなかつた。だから私は彼女と別れたんです。そしてその時、主の天使が私に現れました。… 彼女は私を笑い、女々しいと呼んだ。彼女は私をその場所から歩いて家に帰らせました(そうです)。彼女は言いました、「“そうですね、この大きな女々しい人。”。私はあなたと一緒に乗ることさえしません。”

私は言いました、“その必要はありません。”

彼女は言いました、“タバコを吸わないの？”

そして私は言いました、“いいえ、奥様。”

言った、“あなたも飲まないの？”

そして私は言いました、“いいえ、奥様。”

“何をするのが好きですか？”と言いました

私は言いました、“釣り、狩猟に行きましょう。”もちろん、それは彼女には興味がありませんでした。それで私は。… とにかくそう思ったんです。そして今日、そう思ってよかったです。そうだね。アーメン。

しかし、来たるべき都がある。

だから今、

悔いのない生き方をしなさい。

兄弟を愛しなさい。

家族を大切にしなさい。

いつか振り返る日が来るからです。

胸が少し重くなりますね。

でも、それが真実です。

25 クリスマスの頃、母がポップコーンを持たせてくれました。

袋いっぱいに入っていて、それを学校のクロークルームに置いておいたのです。

そして――

私は、ずるいことをしました。

授業中に手を挙げました。

「どうしたの、ウィリアム？」

「ちょっと失礼してもいいですか。」

外に出て、クロークルームに回り、

袋の中に手を突っ込み、

大きな一握りをつかみました。

校舎の裏に行って、それを全部食べてしまったのです。

自分の分を“確保”するために。

昼になって、私たちはバケツを取りに行き、

ポップコーンの袋を開けました。

兄がのぞき込み、  
半分ほど減っているのを見て言いました。  
「おい……何かあったな？」  
私は言いました。  
「そうだよ。」  
何が起きたか、私は知っていました。  
兄の分を食べてしまったのです。  
でも兄は、残りを分けてくれました。  
——  
小さな、でも忘れられない出来事。  
ずるさ。  
罪悪感。  
そして、赦し。  
兄は責めませんでした。  
分け合いました。  
後になって分かります。  
ここには、永遠に続く都はない。  
でも、あの瞬間の赦しは、  
永遠を思わせるものです。  
若い人たち、  
後で思い出して胸が痛むことは、しないように。  
でも、もししてしまったら——

ガールフレンドたちを乗せてドライブに行こう。」  
私は思いました。  
「まあ、それも悪くないかもしれない。」  
——  
少年が森から町へ出ていく瞬間。  
自然の中で神を知った青年が、  
人の世界へ足を踏み入れる。  
でも、これもまた  
ここには永遠に続く都はないという旅路の一部。  
森も、青春も、  
美しさも、憧れも、  
すべては過ぎていきます。  
けれど、誠実さは残る。  
そして神は、森の中でも、  
若者の心の中でも、  
働いておられるのです。

28 それで私たちは出かけました。私たちはサンドイッチを買うためにそこに立ち寄りました。そして私は中に入って、コーラとサンドイッチを買って、戻ってきました。そして私たちはサンドイッチを食べ、私はコーラコーラのボトルを取り戻しました。戻ってみると、驚いたことに、私の小さなガールフレンドがタバコを吸っていました。

そうですね、私はいつもタバコを吸う女性について自分の意見を持っていましたが、まだそれを変えていません。それは女性ができる最も最低で、最も不道德で、最も品位を傷つける行為です。私はそのように福音を宣べ伝えるためにここにいるわけではありません。あなたの説教者がそうするでしょう。

自然の中で神を学びました。

私にとって、神を知る最初の教室は、  
教会ではなく自然でした。

やがて十七、十八になると、

友人の父親が車を持っていました。

ジェームズ・プールという友人です。

彼が言いました。

「ビル、会ってほしい子がいるんだ。」

私はその少女を見ました。

なんと美しいことか。

真珠のような歯、

鳩のような目、

白鳥のような首。

本当に、見たこともないほどきれいでした。

「彼女、君に会いたがってるよ。」

私は言いました。

「いや……女性と話すなんて、どうしたらいいかわからない。」

彼は笑って、

「大丈夫だよ、来いよ。」

何度か話すうちに、

彼が言いました。

「父さんの古い車を借りて、

赦しがある。

そして、分け合う心がある。

地上の袋は減っていく。

でも、愛は減らない。

胸に残る話ですね。

26 あの柵にもたれながら、

いろいろなことが心に浮かびました。

あの兄は、もういません。

私がアリゾナにいた何年も前、

病院で私の名を呼びながら亡くなりました。

友よ——

もし目の前に一億ドル積まれていたとしても、

あの時のポップコーン一握りを

もう一度兄に返せるなら、

私はすべてを差し出したでしょう。

でも、できません。

彼は行ってしまった。

どれほど苦勞して生きたことか。

まだ若いままで亡くなりました。

私たちは服を分け合い、

食べ物を分け合い、

貧しさを分け合いました。

亡くなる直前、  
彼は胸に手を置いて言ったそうです。  
「もうビルに会うことはないだろう。  
でも伝えてくれ。  
彼は私のいちばん好きな兄弟だ。」  
その言葉を思い出しながら、  
私は泣き始めました。  
妻が言いました。  
「もう帰って休んだら？」  
彼女は、私の心の中で何が起きているかを見ていたのです。  
それで、私をその場から連れ出し、  
道を上っていきました。  
子どもの頃の生活。  
少年時代。  
すべてが、もう過去。  
ここには、永遠に続く都はない。  
兄も、父も、校舎も、家も。  
すべては去っていく。  
でも——  
あの言葉、  
あの愛、  
あの赦し。

それらは、永遠の都を思わせる。  
地上では、  
やり直せないこともある。  
だからこそ、  
今を大切にしなさい。  
愛を、今日、伝えなさい。  
胸に重みが来ますね。  
でも、その重みの中に、  
永遠への希望があります。

27 私は若い頃、女性たちの生き方を見てきました。  
正直に言えば、あまり好きにはなれませんでした。  
軽く扱われるものを、私は尊敬できなかったのです。  
けれど、一つだけはっきりしています。  
真実な女性には、最高の敬意が払われるべきです。  
肌の色がどうであろうと関係ない。  
本当に淑やかで誠実な女性なら、尊ばれるべきです。  
神がそれをご存じです。  
私は少年の頃、心に決めていました。  
「女性とは関わらない。  
一生、狩人として生きる。」  
そして実際にそうしました。  
森で暮らし、夜通し狩りをし、